

平成29年度

履修の手引き

〈大学院〉

入学年度により修了要件等が異なりますので注意して下さい。



富山県立大学大学院工学研究科

平成29年度工学研究科学年暦

(前期)

	日	月	火	水	木	金	土	授業日程	行事予定(休講措置)
4月							1	4月10日 前期授業開始	4月5日～7日 オリエンテーション 学生定期健康診断 4月6日 入学式
	2	3	4	5	6	7	8		
	9	10	11	12	13	14	15		
	16	17	18	19	20	21	22		
	23	24	25	26	27	28	29		
	30								
5月								5月26日 学生球技大会(全日休講)	5月30日 金曜日の授業
		1	2	3	4	5	6		
	7	8	9	10	11	12	13		
	14	15	16	17	18	19	20		
	21	22	23	24	25	26	27		
	28	29	30	31					
6月					1	2	3	6月1日 開学記念日(休業日)	6月中旬 オープンキャンパス 6月下旬 工学部編入学試験
	4	5	6	7	8	9	10		
	11	12	13	14	15	16	17		
	18	19	20	21	22	23	24		
	25	26	27	28	29	30			
7月							1	7月3日、7日、8日 特別授業(補講) 7月10日～14日 補講週間 7月18日、19日 特別授業(補講)	7月上旬 大学院入学者選抜 7月上旬 サークルリーダー研修会
	2	3	4	5	6	7	8		
	9	10	11	12	13	14	15		
	16	17	18	19	20	21	22		
	23	24	25	26	27	28	29		
	30	31							
8月				1	2	3	4	8月2日～10日 まとめ又は授業及び試験(8月9日、10日 予備日 ※2)	8月上旬 ダ・ヴィンチ祭 8月上旬 オープンキャンパス 8月下旬 大学院入学者選抜
	6	7	8	9	10	11	12		
	13	14	15	16	17	18	19		
	20	21	22	23	24	25	26		
	27	28	29	30	31				
9月								8月21日～9月8日 集中講義	
						1	2		
	3	4	5	6	7	8	9		
	10	11	12	13	14	15	16		
	17	18	19	20	21	22	23		
	24	25	26	27	28	29	30		
授業回数	午前	15	15	15	15	15			
	午後	15	15	15	15	15			

- … 通常授業
- … 通常授業+補講週間(※1)
- … まとめ又は授業及び試験(※2)
- … 休講
- … 補講(特別授業時間割)
- … 曜日の振替

(後期)

	日	月	火	水	木	金	土	授業日程	行事予定(休講措置)
10月								10月2日 後期授業開始	10月28日～29日 大学祭(10月27日午後、30日休講)
	1	2	3	4	5	6	7		
	8	9	10	11	12	13	14		
	15	16	17	18	19	20	21		
	22	23	24	25	26	27	28		
	29	30	31						
11月								11月2日 金曜日の授業	11月24日 工学部推薦入試(全日休講)
				1	2	3	4		
	5	6	7	8	9	10	11		
	12	13	14	15	16	17	18		
	19	20	21	22	23	24	25		
	26	27	28	29	30				
12月						1	2	12月4日～8日 補講週間 12月12日、13日、18日 特別授業(補講) 12月15日午前 特別授業(補講)	12月上旬 大学院入学者選抜
	3	4	5	6	7	8	9		
	10	11	12	13	14	15	16		
	17	18	19	20	21	22	23		
	24	25	26	27	28	29	30		
	31								
1月								1月12日午前 特別授業(補講) 1月17日、18日、27日 特別授業(補講) 1月22日～26日 補講週間	1月13日～14日 大学入試センター試験(12日午後休講) 1月下旬 工学部私費外国人留学生入試 大学院入学者選抜
		1	2	3	4	5	6		
	7	8	9	10	11	12	13		
	14	15	16	17	18	19	20		
	21	22	23	24	25	26	27		
	28	29	30	31					
2月						1	2	2月5日～14日 まとめ又は授業及び試験(2月13日、14日 予備日 ※2) <2月中旬 卒業研究発表会>	2月下旬 工学部一般入試(前期日程) 2月中旬～3月上旬 スキー講習会
						3	4		
	5	6	7	8	9	10	11		
	12	13	14	15	16	17	18		
	19	20	21	22	23	24	25		
	26	27	28						
3月					1	2	3	3月17日 学位記授与式	
	4	5	6	7	8	9	10		
	11	12	13	14	15	16	17		
	18	19	20	21	22	23	24		
	25	26	27	28	29	30	31		
授業回数	午前	15	15	15	15	15		原則として、後期は集中講義を行わない。	
	午後	15	15	15	15	15			

- ※1 「補講週間」… 通常の時間割に加えて、主に9～12限に補講が実施されます。学生掲示板で確認してください。
- ※2 「まとめ又は授業及び試験」… 各学期の最終週(予備日を含めた7日間)は、授業予定表(時間割)を配布します。

目 次

◆平成29年度工学研究科学年暦

◆目次

I	建学の理念と目的	1
II	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）	3
III	教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）	5
IV	教育研究分野の概要	7
V	学修の指針	
1.	教育課程表	19
2.	授業時間	19
3.	課程修了の要件等	19
4.	授業科目の履修方法等	20
5.	試験と成績評価等	21
6.	修士論文（特別研究）、博士論文（特別研究）の評価基準について	24
7.	放送大学との単位互換	25
VI	教育課程表	
1.	機械システム工学専攻	27
2.	知能デザイン工学専攻	28
3.	情報システム工学専攻	29
4.	環境工学専攻	30
5.	生物工学専攻	31
VII	授業科目（特別演習・特別研究）の説明（シラバス）及び研究指導計画	33
VIII	履修に関する規程等	
•	富山県立大学大学院学則	61
•	富山県立大学学則（抄）	68
•	富山県立大学大学院履修規程	69
IX	履修登録マニュアル	71
X	講義支援システム（エスプリ）マニュアル	87

I 建学の理念と目的

I. 建学の理念と目的

富山県立大学は、

- 1 富山県の発展をめざした県民の大学
 - 2 未来を志向した大学
 - 3 特色ある教育をめざした大学
- を建学の理念としています。

この理念のもとに、大学の目的を次のとおり掲げています。

- 1 次代を担う青年の多様な個性の開発を促し、視野の広い、人間性豊かな、創造力と実践力を兼ね備えた、地域及び社会に有為な人材を育成します。
- 2 学術の中心として広く知識、技術を授け、未来を志向し、高度な専門の学芸を深く教授研究します。
- 3 学術と産業との有機的連携を進めるとともに、富山県民の本学に対する地域振興の原動力としての期待や生涯学習に対する多様な要請に応え、科学技術の新たな拠点として、学術文化の向上と産業の振興発展に寄与します。

II 学位授与方針

Ⅱ. 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

建学の理念と目的に則り、以下の要件を満たす学生に対し修了を認定し、「修士（工学）」又は「博士（工学）」の学位を授与します。

- 1 高度な専門知識を持ち、それらを活用できる。
- 2 論理的に思考・記述し、的確に発表・討議できる。
- 3 博士前期課程にあっては、研究方法を理解し自ら研究を進め、困難な課題に挑戦し、解決できる。
- 4 博士後期課程にあっては、自立的な研究経験と高度の専門知識および俯瞰的視野を持ち、独立して研究開発を遂行できる。

Ⅲ 教育課程編成・実施方針

Ⅲ. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

工学研究科では、学部教育で育んだ専門性をより深化させつつ、グローバル化や知識基盤社会の進展にも対応できる技術者の育成を教育目標に掲げている。これらを達成するために、次の観点から教育課程を編成している。

- 1 先端技術を含むより高度な専門的知識を身につけさせ、活用する能力を育む。
- 2 論理的記述力、口頭発表力、討議能力をより一層向上させる。
- 3 博士前期課程においては、研究開発を進める上での一般的手法を理解させ、自ら研究を進め、より困難な課題に挑戦し解決する能力を身につけさせる。
- 4 博士後期課程においては、自立的研究経験と高度の専門知識および俯瞰的視野を持ち、自ら問題を設定して研究開発を企画・立案し、遂行できる能力を身につけさせる。

IV 教育研究分野の概要

IV. 教育研究分野の概要

機械システム工学専攻の教育理念

学部からの「環境調和型ものづくり」を継承し、環境に配慮した安全で安心な社会の構築を目指した高度な機械工学の専門教育と研究を行う。環境調和型ものづくりを基本姿勢とした機械システム工学専攻では、学部教育の基盤の上で先端的で高度な機械工学とその周辺分野についての専門知識を身につけ、さらにライフサイクルアセスメント（LCA）工学に基づく統括的な専門領域の学問を理解し、斬新な創造力と思考力を発揮できる高度な専門技術者および研究者を養成する。

この目標に向かって、基礎技術の高度化、エネルギーの変換と有効利用、エコ対応デザイン工学への促進、新材料の生産と加工等を中心に、①機械エネルギー、②エコデザイン、③エコマテリアルの3部門を軸として教育、研究を行う。この部門には、工学の基礎となる理学（数学）も含めてある。

学習・教育目標

- (A) 高度な機械工学分野の専門能力を有する人材の育成
1. 高度な機械エネルギーに関する理論を学び、熱流体機械の設計・開発に応用できること
 2. 高度な設計に関する理論を学び、強度、環境、生産を考慮した機械の設計・開発に応用できること
 3. 高度な材料、加工に関する理論を学び、材料や加工法を機械の設計・開発に応用できること
- (B) 環境に調和する資源循環型社会の実現に向けて、今日的課題を解決できる人材の育成
1. 資源・エネルギーに関する問題意識を持ち、環境に調和した資源循環を考えた機械の設計・開発のできる人
 2. 特別演習において、課題を抽出し、対策を考案し、問題を解決できること
 3. 特別研究において、自ら目標を設定し、計画を立案し、研究を推進し、成果を出せること
- (C) 幅広い視野と豊かなコミュニケーション能力を有する人材の育成
1. 科学技術や技術経営に関する知識を有し、広い視野で技術の動向を理解できること
 2. 高度な実践英語を学び、論文執筆（アブストラクト）、文献調査、留学生とのコミュニケーションなどに生かせること
 3. 学会発表を通じて、適切な成果発表および質疑応答ができること

〔各部門の概要〕

部門名	概 要
機械エネルギー	<p>環境調和のためのエネルギーの高効率変換や有効利用に深く関わる熱流体現象の基礎と応用を研究する。熱の移動や物質の流れを伴う諸現象を、連続体として取り扱うマクロな立場からだけでなく、ミクロな立場からも研究している。実験的手法と数理科学的手法とを有機的に連携させながら研究する。</p> <p>代表的なテーマとして航空宇宙工学に現れる高速・高温現象、電子機器の冷却などがある。</p>
エコデザイン	<p>環境調和に基づく機械設計工学および材料強度について研究する。</p> <p>ここでは、金属・非金属・複合材料などの強度特性評価、有限要素法による応力解析、強度設計、コンピュータによる高度な設計システム（CAD/CAM）、LCA工学に基づく機械設計、自動車工学などについて研究する。特に、新設分野のLCA工学に基づく設計は、機械工学の全分野を総括的に扱うものである。</p>
エコマテリアル	<p>環境調和に配慮した新材料や新加工プロセスの開発、研究を行う。</p> <p>金属を中心にプラスチック、セラミックス、複合材料、金属間化合物などの生産技術、加工法、性能評価、リサイクル技術などの基礎および応用研究を行っている。</p> <p>例えば、材料のミクロ構造と力学特性の関係、変形によるひずみや組織を制御した材料の加工法など、省資源、省エネルギーの観点からも重要な技術であり、産業界に貢献できる高度な研究を行っている。</p>

知能デザイン工学専攻の教育理念

知能デザイン工学専攻は、機械工学・電子工学・情報工学のいずれかの学問領域に軸足を置きつつ、三領域にまたがる広範な知識と幅広い視野をもって賢いシステムを設計できる、多才な人材を育成することを目標としています。そのために、本専攻では軸足を置く領域の高度な専門知識を身につけるとともに周辺領域の関連知識を学び、マクロからミクロレベルまで幅広い視野で次世代のさまざまな技術を開発する能力を育む教育と研究を行っています。

具体的には、賢いロボットについて考究する知能システム工学部門、賢いヒューマン・インタフェースについて考究する知的インタフェース工学部門、マイクロ・ナノ領域の賢い計測・加工法を考究するマイクロ・ナノシステム工学部門、賢い機能デバイスについて考究する電子ナノデバイス工学部門の4部門を柱として、機械工学・電子工学・情報工学にまたがる高度な教育・研究カリキュラムを定め、大学院教育を行っています。

学習・教育目標

高い人間性を基本に、電子工学、機械工学、情報工学分野の幅広い高度な専門知識と応用力を身につけ、創造力と実践力により社会の変化に柔軟に対応できる研究者・技術者の育成を目標にする。

- 1 電子工学、機械工学、情報工学分野の先端技術の融合により幅広い視野で、超高齢社会、地球環境保全、高機能化、超微細化、超集積化、超小型化、安心・福祉社会、高セキュリティなどのための革新的な技術開発のできる研究者・技術者を育成する。
- 2 メカトロニクス技術に基づく高知能・高機能なロボット、人間のための高知能・高機能な知的インタフェース、マイクロ・ナノ領域の工業的な計測や加工、ナノテクノロジー、プラズマ応用、ナノ構造制御による電子ナノデバイスに関する教育と研究を行う。
- 3 人間・社会・環境に関する問題に対して、自然科学や専門領域における種々の技術、情報を総合して、解決策をグローバルな視点から構想、設計、実行、評価し、多面的に考える能力を養う。
- 4 ものごとを論理的に考え、まとめ、記述し、口頭発表や討議などを行うコミュニケーション能力と国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を養う。
- 5 工学技術が人間社会や自然環境に及ぼす影響を理解し、工学研究者・技術者として必要な倫理規範や責任の重さを判断できる能力を育成する。

[各部門の概要]

部門名	概 要
知能システム工学部門	<p>環境から複雑な情報を取りこみ、適切なモデルに基づいてすばやく判断を下し、機構を巧みに操る賢いシステムは、次世代産業の基盤です。この分野は、メカトロニクス技術を中心として、ロボット工学や福祉工学の諸技術や生産システム技術などの先端技術領域でもあります。知能システム工学部門では、この技術領域における知能化とは何かをテーマとして、従来のロボット工学という概念にとらわれない次世代ロボット、ロボットによる柔軟な生産システム、ユーザーフレンドリーな福祉機器、などにかかわる高度な教育と研究を行っています。</p>
知的インタフェース工学部門	<p>人間と同じように周囲の状況を把握したり、人間の能力を拡張したり、衰えた人間の機能を補完したりできる未来のコンピュータやロボットを実現するためには、賢いヒューマン・インタフェース技術が不可欠です。この分野における技術開発には、脳の情報処理や認知のメカニズム、高度なパターン情報処理技術、障害者を支援する福祉技術など、広範な学際領域の知識と技術が必要です。知的インタフェース工学部門では、視覚や聴覚や脳の高次機能の解明、ブレイン・マシン・インタフェース、文字や図形や音声などのパターン認識、生体認証システム、などにかかわる高度な教育と研究を行っています。</p>
マイクロ・ナノシステム工学部門	<p>マイクロ・ナノメートル領域という極小サイズの世界における計測技術と加工技術の確立は、工場製品をより小型化し高性能化したり、新しいバイオ計測機器を開発したりするためにきわめて重要な先端技術です。この分野における技術開発には、先端的な材料加工学や光応用計測やバイオ計測など、広範な学際領域の知識と技術が必要です。マイクロ・ナノシステム工学部門では、マイクロ・ナノメートル領域での材料の加工・計測技術とバイオ計測技術、および、これらの技術を応用したシステム、などにかかわる高度な教育と研究を行っています。</p>
電子ナノデバイス工学部門	<p>新しいデバイスは、これまでもこれからも、さまざまなエレクトロニクス関連技術の基盤です。新しいデバイスを開発するためには、電子、原子、分子レベルで物質の性質を明らかにし、新しい材料や新しい機能を持つ物質を創製するとともに、その創製方法を考案することが不可欠です。電子ナノデバイス工学部門では、カーボン・ナノチューブ、強誘電体デバイスや圧電デバイス、電子線誘起反応を利用した微細加工技術、などにかかわる高度な教育と研究を行っています。</p>

情報システム工学専攻の教育理念

私たちを取り巻く環境は、コンピュータによる情報処理技術やネットワーク技術を活用した高度な情報システムの普及によって、日ごとに複雑化、多様化、高度化し、急激に変化しています。また、一方では誰でも情報化の恩恵を享受出来る事が求められています。こうした社会や時代の要請に応じていくために、高度な人間支援システムを構築する情報技術の研究・開発や、その応用を推進していく事ができる広い視野と広範な専門的応用力を有し、柔軟な発想の出来る人材を育成していきます。

学習・教育目標

情報システム工学の体系的な知識の獲得と未知の課題を積極的に解決できる専門的応用力を身に付け、急激な社会変化にも柔軟に対応できる研究者・技術者の育成を目標とします。

- (A) 情報ネットワークの高度化・高速化、マルチメディア情報処理、情報機器のインテリジェント化・高度化、地球環境情報処理などの技術革新と情報社会を支える「情報通信システム」を対象にした教育研究
- (B) 社会人として広い視野を有し、高度情報社会における役割と社会的責務を理解する研究者・技術者の育成
 1. 社会、地域産業、あるいは企業経営に貢献する技術開発の基礎的要件を学ぶこと
 2. 情報システム技術が社会、文化、生活に及ぼした影響を学び、この分野の研究者・技術者としての倫理的役割を自覚すること
- (C) 情報システム工学分野の幅広い知識と専門知識を有し、情報システム工学分野で指導的な職責を果たせる研究者・技術者の育成
 1. 情報システムの基礎となる数学・物理学の原理や法則を理解し、適切に運用できること
 2. 情報処理、情報通信ネットワークの高度な専門知識を習得すること
 3. 特別演習や特別研究を通じて実践的能力と継続して学習する能力を身に付けることや、学部学生を指導する経験を積み、指導力を養うこと
- (D) 論理的思考能力を高め、問題解決や研究課題の遂行を合理的に推進できる研究者・技術者の育成
 1. 情報システム工学のある専門的内容について、同じ分野の研究者・技術者に的確に説明できる資料作成と、十分な議論が出来る能力を養うこと
 2. 大学・大学院で学習したこと全般をもとにして、特別研究で行ったことを首尾一貫した合理性のある修士論文または博士論文としてまとめること
- (E) コミュニケーション能力を磨き、社会および地域から要請される問題を自主的・合理的に処理できる研究者・技術者の育成
 1. 他人の考えを理解することと、自分の考えを理解してもらうことの両方がバランス良くできるようになること
 2. 外国語を学び、国際的なコミュニケーション能力を活用できるようになること
 3. 社会および地域において情報システムによって解決すべき課題が発見できるようになり、課題解決できるようになること

〔専攻の概要〕

情報システム工学専攻は、情報メディア工学部門および通信ネットワーク工学部門、ソフトウェア工学部門より構成され、それぞれ高度に専門的な教育と研究を行う。

〔各部門の概要〕

部門名	概要
情報メディア工学部門	<p>本部門では、情報ネットワークを豊かで人間に優しいシステムとするための新しいヒューマンインタフェース技術やマルチメディア処理技術に関する教育と研究を行う。コンピュータの高性能化とネットワーク結合された分散型コンピュータシステムや生体情報を利用したインタフェースシステム、さらにはパターン認識や情報システムの最適化など、多様な情報メディアの創生・処理技術の高度化に関する教育と研究を行う。また、マルチメディア処理技術の開発は、画像情報、動画・音声、各種データの高速処理を実現する。</p>
通信ネットワーク工学部門	<p>本部門では、通信ネットワークの構築およびその高度利用技術に関わるハードウェアとソフトウェアに関する教育と研究を行う。情報化社会が到来し、ブロードバンド・高速通信網の実現が期待されている。しかし一方では、急激に増加するメディア情報量を前にして、更なる情報伝送容量の拡大と効率的なネットワークの利用技術の開発が求められている。これらの問題を解決するために、光情報通信ネットワークとその情報処理技術の研究を行なう。また、電磁波による通信技術を開発し、携帯電話をはじめとするモバイル通信、宇宙通信、電子タグなど近接情報通信の新分野を開拓する。さらには、コンピュータの高度化に不可欠な半導体デバイス・集積回路の高機能・高密度化に関する技術について研究し、リアルタイム性を要求される医療も視野に入れた研究も行う。</p>
ソフトウェア工学部門	<p>本部門では、ソフトウェア開発技法と情報システムの構築と高度な利用に関する教育と研究を行う。インターネット利用による情報システムが社会組織の活動を支えるものと考えられ、高性能、高信頼な基幹ソフトウェア、ユーザーフレンドリーな教育支援システム、電子図書館などの高度な応用システムの開発に関する研究を行う。また、大容量情報のデータベース化技術とセキュリティ技術、人とコンピュータを滑らかにつなぐためのユビキタス環境と人工知能技術、コンピュータグラフィックスによるバーチャルリアリティ技術に関する教育と研究を行う。</p>

環境工学専攻の教育理念

環境問題は、対象となる物質の多様化、規模の拡大、多くの事象間の相互関係の複雑化などが進んでいることから、対策には俯瞰的な視野と高度な技術が必要とされ、また国際的な対応も求められている。本専攻では、創造力と実践力に基づいて、このような複雑かつ多様な環境問題に対して解決策や循環型社会の構築のための技術や政策を提案できる人材の養成を教育の理念とする。

具体的に、環境問題には、各種物質による環境汚染、エネルギー資源、廃棄物処理、生物多様性保全、および自然環境と人間生活との調和など多くの側面があり、これらに対処する社会の仕組みとも密接に関連する。これらの問題に対処できる高度な環境技術の開発力、環境ビジネスや行政におけるマネジメント能力を身につけるための教育・研究を展開する。

学習・教育目標

確かな基礎学力を基本に、環境問題の解決ならびに循環型社会の構築のための高度な技術やマネジメント能力を有する人材育成のために、以下の学習・教育目標を掲げる。

1. 持続可能な循環型社会づくりに主体的に取り組む人材の育成。
2. 環境分野における専門技術のみならず、法律、政策立案、技術等の専門性を身に付け、両方の専門性を生かして環境・社会との関係を理解し、環境保全のために専門性を発揮する力を有する人材の育成。
3. 環境マネジメントの手法を取り入れた環境保全の方策を立案・展開できる人材の育成。
4. 経済社会活動に環境保全を統合する企画構想力を有する人材の育成。
5. 国際的な技術交流や国際ビジネスに対応できる人材の育成。

〔各部門の概要〕

部 門 名	概 要
水 循 環 工 学 部 門	<p>持続性のある水資源の効率的かつ高度利用に関する技術について教育・研究をする。</p> <p>具体的には、水資源の水文学的な評価・開発、水資源活用技術、水資源の循環利用に関する技術、安全性評価のための水質評価手法、水処理の技術、水圏生態系の評価・保全技術を研究する。</p>
資 源 循 環 工 学 ・ 環 境 政 策 学 部 門	<p>資源の効率的な循環利用に関する技術及びそれを実現するための環境政策、環境マネジメントに関する教育・研究をする。</p> <p>具体的には、環境負荷削減のための物質の環境負荷解析・評価技術、生物の機能を利用した汚染環境の修復技術、廃棄物の処理・リサイクル、有効利用の技術、化学物質の影響評価と使用に伴うリスク評価技術、各種事業体における環境管理手法の技術、行政等における環境政策に関する技術を研究する。</p>
環 境 デ ザ イ ン 工 学 部 門	<p>安全・安心な持続可能な社会の基礎となる社会基盤の整備に関する技術を教育・研究する。</p> <p>具体的には、地域環境の計画手法、GISを活用した地域整備技術、河川整備に関わる応用生態工学的的手法、建築材料の向上・リサイクル技術を研究する。</p>

生物工学専攻の教育理念

本専攻では、「生命現象を分子レベルで解析し、それを確実に応用へと繋げる」能力の養成を目標に教育・研究を行っています。具体的には、微生物・植物バイオによるファインケミカル・基礎化学品・バイオ医薬などの有用物質生産、ゲノム情報利用技術の開発、幅広い生物素材を用いた健康維持増進のための機能性食品の開発や、医薬品及び製剤技術の開発などを行っています。このため、省エネルギーで環境にやさしいバイオプロセスやバイオプロダクト開発を志向した、グリーンバイオテクノロジー分野における先端的・革新的な技術開発を行う世界水準の研究拠点形成を目指した活動を通して、次代を担う専門的能力を身に付けた研究者の育成を目標にしています。したがって、応用微生物学・分子生物学を中心とする応用微生物系、植物・機能性食品系、有機化学系、生物情報系、医薬品工学系に特色を持った教育・研究カリキュラムを定め、特に、実験と技術英語を重要視した少人数教育による大学院教育を行います。

学習・教育目標

- 1 地球的視野を有し、高い生命倫理観を持った個性豊かな研究者を育成する。
- 2 生物工学および周辺分野の幅広い知識と最先端技術を持った研究者を育成する。
- 3 地域社会の振興発展に貢献し、将来、地域産業界のリーダーとなる研究者を育成する。
- 4 先駆的かつ独創的研究を立案し遂行する能力、および高いコミュニケーション能力を持った国際的研究者を育成する。

〔各部門の概要〕

部 門 名	概 要
酵素化学工学部門	酵素等の生体触媒を新規に開発し、それらを環境負担のない、工業的な有用物質合成等に利用するための基礎研究を行う。
応用生物プロセス学部門	酵素や微生物細胞の触媒機能を利用し、医薬品や香料などの有用物質を高効率で生産するバイオプロセスの開発を行う。
微生物工学部門	自然界から新規微生物を探し出し、それが生産する抗生物質等の有用物質を医農薬等へ応用するための研究を行う。
生物有機化学部門	微生物等が生産する生理活性物質を探し出し、その合成法や変換法の開発、構造と活性の相関を明らかにするとともに、医農薬へ応用するための研究を行う。
植物機能工学部門	植物未利用遺伝資源の増殖技術を確立し、植物特有の代謝機能を積極的に活用する研究を行う。
機能性食品工学部門	食品素材や和漢薬エキス、微生物などの幅広い生物素材を対象とし、健康維持増進、生活習慣病の改善等に役立つ機能性食品の開発を目指した研究を行う。
応用生物情報学部門	情報科学とバイオテクノロジーを融合して、新規有用物質の発見や既知物質の生産性向上などの研究を行う。
製薬化学工学部門	医薬品の化学合成、製剤化や新規薬物送達システム（ドラッグデリバリーシステム）の開発など、医薬品の製造・品質管理に関する研究を行う。
バイオ医薬品工学部門	抗体医薬品・核酸医薬品等のバイオ医薬品の製造やiPS細胞などを用いた再生医療技術の開発などの研究を行う。

V 学修の指針

V. 学 修 の 指 針

1. 教育課程表

- ◆機械システム工学専攻 は P27 を
- ◆知能デザイン工学専攻 は P28 を
- ◆情報システム工学専攻 は P29 を
- ◆環境工学専攻 は P30 を
- ◆生物工学専攻 は P31 を参照して下さい。

2. 授業時間

授業は、別に配付される「授業時間割」により行われます。

時限	授 業 時 間	時限	授 業 時 間
1	9 : 00 ~ 9 : 45	5	13 : 10 ~ 13 : 55
2	9 : 45 ~ 10 : 30	6	13 : 55 ~ 14 : 40
3	10 : 40 ~ 11 : 25	7	14 : 50 ~ 15 : 35
4	11 : 25 ~ 12 : 10	8	15 : 35 ~ 16 : 20
		9	16 : 30 ~ 17 : 15
		10	17 : 15 ~ 18 : 00

3. 課程修了の要件等

(1) 修了に必要な単位数

博士前期課程修了に必要な最低修得単位数は 32単位 です。

博士後期課程修了に必要な最低修得単位数は 14単位 です。

(具体的には別表の教育課程表を参照すること)

(2) 修士論文及び博士論文の提出

修了要件の単位を修得した者、又は修得見込みの者でなければ修士論文及び博士論文を提出することはできません。

(3) 最終試験

最終試験は、修了要件の単位を修得もしくは修得見込みであり、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文及び博士論文を提出した者について行い、合格した者に対して修了を認定します。

4. 授業科目の履修方法等

授業科目の履修は、教育課程表に従って履修して下さい。

(1) 履修申請等

履修する授業科目については、以下の2つのシステムにそれぞれパソコンを使って科目登録を行わなければなりません。

① 履修登録システム

履修申請を行うためのシステムです。履修しようとする授業科目については、必ずこのシステムによって科目を登録し、履修申請手続きを行わなければなりません。

履修申請を行っていない授業科目の単位認定は一切できないので注意して下さい。

登録は、学内ネットワークに接続されている端末（ワークステーション室または計算機センターの端末）から行います。履修登録の方法は、71ページを参照してください。

履修申請を行った者については、後日、履修申告確認表を交付するので、記載内容に間違いがある場合は、追加・取消等必要な手続きをとって下さい。

履修申告確認表をもって履修の承認としますので、大切に保管して下さい。

② 講義支援システム（エスプリ）

授業を受ける際に使用するシステムです。「授業科目の説明（シラバス）」を閲覧したり、担当教員からの連絡事項や授業日程を確認したり、授業で使用する資料を閲覧・出力できます。

履修登録システムで履修申請を行った科目については、必ず、エスプリにも登録を行ってください（ただし、シラバスについては登録を行わなくても自由に閲覧することができます）。この登録を怠ると、日程や教員からの指示など、授業に関する重要な情報が得られない恐れがあります。

登録はインターネットに接続している端末から行います。登録方法は、89ページを参照してください。

(2) 他専攻の授業科目の履修

他専攻の授業科目（必修科目を除く）を履修した場合、博士前期課程においては下記のとおり、修了要件の単位数に算入することができます。なお、機械システム工学専攻必修の専門基礎3科目についても、他専攻の学生が履修できます。

◆機械システム工学専攻入学生……4単位を超えない範囲

◆知能デザイン工学専攻、情報システム工学専攻、環境工学専攻、生物工学専攻入学生……6単位を超えない範囲

※ 富山県立大学論文準修士の称号保有者についてはMOT科目と合せて機械システム工学専攻入学生は6単位、その他は8単位までとします。

(3) 他大学大学院の授業科目の履修

本学と単位互換協定を締結している富山大学大学院理工学教育部及び医学薬学教育部の授業科目を特別聴講生として履修した場合、博士前期課程においては、(2)の単位数と合わせて下記のとおり、修了要件の単位数に算入することができます。

◆機械システム工学専攻入学生…… 4単位を超えない範囲

◆知能デザイン工学専攻、情報システム工学専攻、環境工学専攻、生物工学専攻入学生
……………10単位を超えない範囲

(4) 学部又は前期課程の授業科目の聴講

① 博士後期課程の学生は、博士前期課程及び学部の授業科目を聴講することが可能です。聴講を希望する場合は、事前に指導教員及び授業担当教員に申し出て許可を得て下さい。ただし、単位は認定されません。

② 博士前期課程の学生は、学部の授業科目を聴講することが可能です。聴講を希望する場合は、事前に指導教員及び授業担当教員に申し出て許可を得て下さい。ただし、単位は認定されません。

(5) その他履修に当たっての注意事項

① 授業時間割の変更や休講の通知は、掲示によって行います。(休講については、講義支援システム(エスプリ)でもお知らせします。)

② 各科目とも全授業時間数の2/3以上出席しなければ、原則として単位認定を受けることができません。

③ 病気、事故等で1週間を超えて欠席するときは、医師の診断書等事情を証明する書類を添付のうえ、欠席届を指導教員を通じて教務課に提出して下さい。

④ 授業時間の重複する授業科目については、履修を申請することはできません。

⑤ 単位を修得した授業科目は、再び履修を申請することはできません。

⑥ 高度実践英語については履修の承認を得たもの以外は、指定された時間に受講して下さい。

⑦ MOT(技術経営)科目については、指定された科目を履修登録して下さい。

5. 試験と成績評価等

成績評価は、試験のほか、レポートや授業態度等により行われます。(詳細は各科目のシラバスを確認してください。)

(1) 試験及びレポート等

試験は、各学期末に行われる試験や、担当教員が学期の途中に独自に行う試験(小テスト、確認テスト等)があります。受験に際しては、下記の【留意事項】を十分に確認してください。

また、レポート作成等の際に、出典を明記することなく他人の文章(インターネット

ト上の情報も含む)を引用することは、剽窃・盗用にあたり社会的倫理に反する行為となるため、試験における不正行為に準じて厳しく対処します。

【留意事項】

ア 受験上の注意

- ・受験に際しては学生証を携帯し、監督者から求められた場合は提示しなければなりません。
- ・携帯電話を所持する場合は、電源を切ってかばんの中に入れてください。
- ・試験開始後20分以上遅刻した者は、試験室への入室が許可されません。
- ・試験開始後20分以上経過するまでは、試験室からの退室が許可されません。
- ・答案は必ず提出してください。試験を中途放棄する場合でも、持ち帰ると不正行為とみなされることがあります。
- ・その他、試験中は監督者の指示に従ってください。

イ 不正行為

試験における不正行為は、試験評価の正確性や公平性を失わせ、ひいては単位取得および修了の正当性を失わせる行為であり、厳にこれを禁止します。

万一、不正行為のあったときは、富山県立大学大学院履修規程第8条及び富山県立大学学生規程第23条に基づき、原則として当該学期中の全科目(実験、実習、実技及び特別研究を除く。)の単位を認定しないとともに、訓告又は停学の懲戒処分を受けることがあるので注意してください。

なお、試験に関する不正行為及び懲戒の内容は、これを公表します。

《不正行為の例》

次のような例は不正行為とみなされることがあります。

- 持ち込み許可を受けない書籍、ノート等の利用
- あらかじめ書き込んだ紙片・コピー・筆記用具等の持ち込み
- 答案用紙の交換・すり替え・隠匿
- 答案用紙への偽名記入
- 他人の答案を見ること及び自分の答案を他人に見せること
- 試験中に会話すること
- 監督者の許可を得ず、座席を離れること
- 携帯電話を使用すること
- その他、試験監督者等が不正行為と認めた場合

(2) 追試験

病気その他やむを得ない理由により試験の全部または一部を受けることができない者で、あらかじめその旨届け出たものに対しては、前期又は後期の全授業日程終了後

3日以内に医師の診断書など事由を証明する書類を添えて、教務課へ追試験願を提出することにより、追試験を受ける機会を与えられることがあります。

天候又は事故等による公共交通機関の遅延のため試験を受験できなかった者についても、追試験の対象として「やむを得ない理由によるもの」と認め、追試験を受ける機会が与えられることがあります。

《公共交通機関の遅延における追試験手続き》

- ・公共交通機関発行の遅延証明書を添えて、指定された期日までに、教務課へ追試験願を提出する。
- ・遅延証明書の提出が無い場合は、追試験を認めない。(期限後の提出は一切認めない。)
- ・追試験の対応については、掲示板で確認する。
- ・自家用車等利用についての追試験は原則として認めない。

(3) 試験等の成績評価

試験等の成績は、優、良、可及び不可をもって表し、優、良及び可を合格とし、不可を不合格とします。

ただし、試験を行わない授業科目の評価については「合格」又は「不合格」をもって表されることがあります。

(4) 単位の認定

履修し、試験等により合格した者には、所定の単位が与えられます。

(5) 単位の計算方法

授業は、講義、特別演習、特別研究のいずれかによって行われますが、授業科目の単位数の計算方法は次のとおりです。

- ① 講義：15時間の授業をもって1単位
- ② 特別演習：30時間の授業をもって1単位
- ③ 特別研究：45時間の授業をもって1単位

(6) 成績の通知

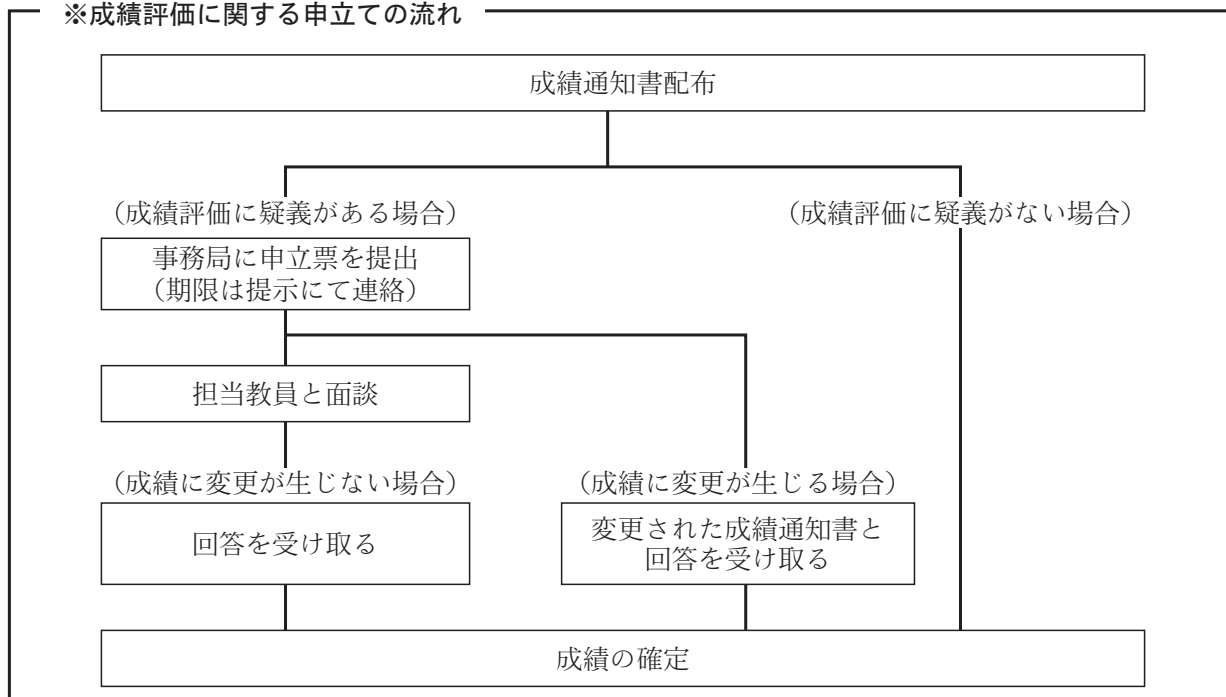
成績通知書は、「3月末～4月初め」と「9月末～10月初め」に交付します。交付日時、場所は合同棟1階掲示板に提示します。

(7) 成績評価に関する申立てについて

成績通知配付後、試験等の成績評価に対して疑問がある場合には、申し立てをすることができます。

申し立てを行う学生は、別に定める申し立て期限内に、所定の「申立票」を教務課に提出してください。

※成績評価に関する申立ての流れ



6. 修士論文（特別研究）、博士論文（特別研究）の評価基準について

(1) 修士論文

① 論文の質的基準

- a. 工学的に新しい知見が得られている。
- b. 研究の将来性、発展性が認められる。

② 評価項目

- a. 研究の背景（関連分野の現状）、研究の位置づけと目的が明確である。
- b. 研究手法と得られた結果についての理解が十分であり、的確な文章表現が与えられている。
- c. 結果の解釈が適切で、新しい知見が得られている。
- d. 研究の将来の発展性が認められる。
- e. 審査会において的確な発表・討論ができる。

(2) 博士論文

① 論文の質的基準

- a. 研究の目的、手法、結果のいずれかに新規性、独創性が認められる。
- b. 工学への寄与が認められる。

未知の事象の発見、未知の事象の理論的解明、新しい概念の導入や解析手法の開発、系統的実験による事象の機構解明への寄与、新材料・新しい機器の発明・開発、新しいシステムの開発、生産性・信頼性の向上に寄与する技術の開発など

- c. 論文の内容（またはその一部）が専門の学術雑誌等に公表されている。

② 評価項目

- a. 研究の背景（当該分野の発展の歴史、他の研究者による関連研究のレビュー、当該研究の位置づけなど）が明確に書かれており、博士論文の内容を含む分野に関して十分な全般的知識を持つことが認められる。
- b. 方法論・研究手法、得られた結果とその解釈が適切であり、的確な文章表現が与えられている。
- c. 内容に独創性または新規性が認められ、工学的な価値が認められる。
- d. 審査会において学術研究にふさわしい討論ができる。
- e. 独立して研究を遂行できる能力を持つと判断される。

7. 放送大学との単位互換

本学は、放送大学と単位互換協定を結んでいます。本学の学生が、放送大学で授業を履修し、単位を修得した場合、所定の手続きを経て本学の単位として認定されます。履修可能単位数は下記のとおりです。

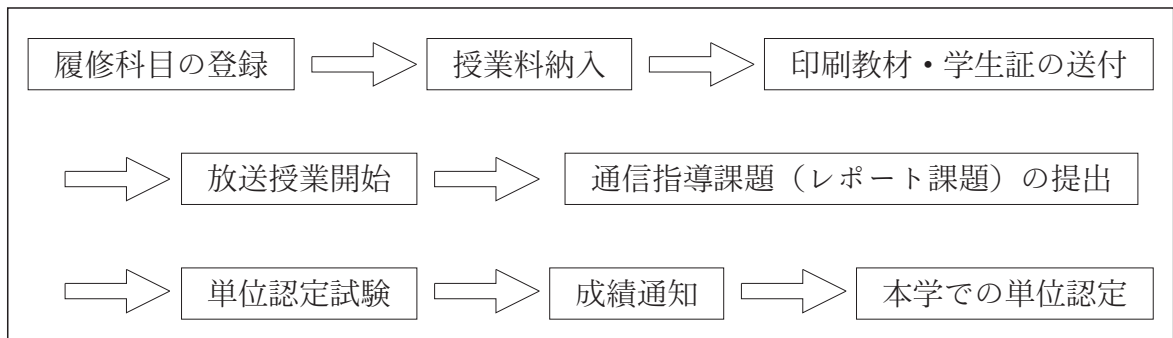
- ◆機械システム工学専攻入学生… 4 単位を超えない範囲
- ◆知能デザイン工学専攻、情報システム工学専攻、環境工学専攻、生物工学専攻入学生
……………10単位を超えない範囲

対象科目、申込方法等は、年度により変更になることがありますので、受講の際は掲示内容を確認してください。

- ① 対象科目（平成29年度）
放送大学で開講される全科目。

- ② 履修方法等
放送大学の学生と同様に、印刷教材・テレビ又はラジオによる放送授業及び通信指導によって学習し、学期末に放送大学富山学習センターにおいて、単位認定試験を受けることになります。

※ 受講の流れ



③ 申込方法

特別聴講学生出願票を教務課へ提出してください。受付時期は前期受講分が1月、後期受講分が7月です。具体的な時期や手続きについては別途掲示により連絡します。

④ 授業料等

1科目あたり2万2千円です。(平成29年4月現在)

⑤ 単位の認定

放送大学は、単位認定試験の結果に基づき、成績を本人及び学長に通知します。これに基づき、本学では、放送大学で修得した単位を本学で取得したものとして認定します。

ただし、修了要件単位に含めることはできません。(自由単位)

VI 教育課程表

VI. 教育課程表

1. 機械システム工学専攻

課程	区分	部 門	授 業 科 目	単位数	学期	備 考
博 士 前 期 課 程	必修	教 養	高 度 実 践 英 語 高 科 学 技 術 論	2 2	前期 後期	
	選択 必修	M O T	技 術 経 営 論 I 地 域 産 業 論 技 術 経 営 論 II 創 造 性 開 発 研 究	2 2 2 2	前期 後期 前期 後期	} 1 科目 2 単位 以上必修 (1 科目 2 単位のみ) 修了要件に算入可
	選 択	機械エネルギー	数 値 熱 流 体 力 学	2	後期	
			実 験 熱 流 体 力 学	2	後期	
			数 理 科 学	2	前期	
			環 境 ・ エ ネ ル ギ ー 工 学 特 論	2	後期	
			応 用 統 計 熱 力 学	2	前期	
			熱 設 計 学	2	前期	
	選 択	エコデザイン	エ ネ ル ギ ー 変 換 工 学 特 論	2	後期	
			C A D / C A M 特 論	2	後期	
			信 頼 性 工 学 特 論	2	前期	
			L C A 工 学 特 論	2	前期	
			ト ラ イ ボ ロ ジ ー	2	後期	
			構 造 強 度 設 計 論	2	後期	
	選 択	エコマテリアル	基 礎 転 位 論	2	前期	
			振 動 音 響 設 計	2	後期	
有 機 材 料 強 度 学			2	前期		
マ テ リ ア ル エ コ プ ロ セ ス 論			2	後期		
複 合 材 料 工 学			2	後期		
環 境 微 細 加 工 学 特 論			2	後期		
必 修	専 門 基 礎	構 造 材 料 強 度 学	2	後期		
		材 料 界 面 工 学	2	前期		
		機 械 エ ネ ル ギ ー 工 学 基 礎	2	前期		
必 修	演 習 ・ 研 究	エ コ デ ザ イ ン 工 学 基 礎	2	後期		
		エ コ マ テ リ ア ル 工 学 基 礎	2	前期		
		機 械 シ ス テ ム 工 学 特 別 演 習 I	2	通年		
必 修	演 習 ・ 研 究	機 械 シ ス テ ム 工 学 特 別 演 習 II	2	通年		
		機 械 シ ス テ ム 工 学 特 別 研 究	8	通年		
		修 了 要 件	博士前期課程に2年以上在学して当該期間中に32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。 なお、論文準修士称号保有者については、MOT部門の科目を3科目6単位まで修了要件単位に算入することができる。			
博 士 後 期 課 程	必 修	演 習 ・ 研 究	機 械 シ ス テ ム 工 学 特 別 演 習 III 機 械 シ ス テ ム 工 学 特 別 研 究	2 12	通年 通年	
	修 了 要 件	博士後期課程に3年以上在学し、14単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。				

2. 知能デザイン工学専攻

課程	区分	部 門	授 業 科 目	単位数	学期	備 考	
博 士 前 期 課 程	必修	教 養	高 度 実 践 英 語 高 科 学 技 術 論	2 2	前期 後期		
	選択 必修	M O T	技 術 経 営 論 I 地 域 産 業 論 技 術 経 営 論 II 創 造 性 開 発 研 究	2 2 2 2	前期 後期 前期 後期	} 1科目2単位 以上必修 (1科目2単位のみ) 修了要件に算入可	
		知能システム 工 学	セ ン サ ロ ボ ッ ト 工 学 ロ ボ ッ ト デ ジ タ ル 制 御 ロ ボ ッ ト 運 動 制 御 ヒ ュ ー マ ン ロ ボ ッ ト シ ス テ ム 知 的 学 習 シ ス テ ム	2 2 2 2 2	前期 後期 後期 後期 前期		
		知的インタ フェース工学	知 能 情 報 工 学 認 知 情 報 科 学 聴 覚 情 報 処 理 パ タ ー ン 認 識 シ ス テ ム V L S I 設 計 生 体 電 磁 環 境 工 学 計 算 論 的 神 經 科 学	2 2 2 2 2 2 2	前期 後期 後期 前期 後期 前期 後期	情報システム工学専攻と同時開講	
		マイクロ・ナノ システム工学	デ ー タ 解 析 論 マ イ ク ロ マ シ ン 論 先 端 バ イ オ 計 測 法 先 端 材 料 加 工 学	2 2 2 2	前期 前期 前期 前期	生物工学専攻と同時開講	
		電子ナノ デバイス工学	強 誘 電 体 工 学 ナ ノ 物 質 物 性 論 ナ ノ 物 性 評 価 法 ナ ノ 構 造 制 御 デ バ イ ス ナ ノ 固 体 電 子 論	2 2 2 2 2	前期 前期 後期 後期 前期		
		必修	演習・研究	知能デザイン工学特別演習Ⅰ 知能デザイン工学特別演習Ⅱ 知能デザイン工学特別研究	2 2 8	通年 通年 通年	
			修 了 要 件	博士前期課程に2年以上在学して当該期間中に32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。 なお、論文準修士称号保有者については、MOT部門の科目を4科目8単位まで修了要件単位に算入することができる。			
	博 士 後 期 課 程	必修	演習・研究	知能デザイン工学特別演習Ⅲ 知能デザイン工学特別研究	2 12	通年 通年	
			修 了 要 件	博士後期課程に3年以上在学し、14単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。			

3. 情報システム工学専攻

課程	区分	部 門	授 業 科 目	単位数	学期	備 考	
博 士 前 期 課 程	必修	教 養	高 度 実 践 英 語 高 科 学 技 術 論	2 2	前期 後期		
	選択 必修	M O T	技 術 経 営 論 I 地 域 産 業 論 技 術 経 営 論 II 創 造 性 開 発 研 究	2 2 2 2	前期 後期 前期 後期	} 1科目2単位 以上必修 (1科目2単位のみ) 修了要件に算入可	
		情報メディア 工 学	大規模情報ネットワーク設計論 アルゴリズム理論 コンピュータネットワーク工学 生体機械インタフェース 学習と探索の理論 意思決定とデータ科学	2 2 2 2 2 2	前期 前期 後期 後期 後期 前期		
		選択 通信ネットワーク 工 学	光 通 信 素 子 工 学 V L S I 設 計 計 算 機 電 波 工 学 ユビキタスネットワーク工学 ユビキタスデバイス工学 電 波 情 報 計 測 画 像 処 理 工 学 ユビキタスアプリケーション シ ス テ ム 制 御 論	2 2 2 2 2 2 2 2	前期 後期 前期 後期 前期 後期 前期 後期	知能デザイン工学専攻と同時開講	
		ソフトウェア 工 学	シ ス テ ム 設 計 開 発 工 学 情 報 シ ス テ ム 論 シ ス テ ム 最 適 化 ソ フ ト ウ ェ ア 検 証	2 2 2 2	前期 前期 前期 後期		
		必修 演習・研究	情報システム工学特別演習Ⅰ 情報システム工学特別演習Ⅱ 情報システム工学特別研究	2 2 8	通年 通年 通年		
		修了要件	<p>博士前期課程に2年以上在学して当該期間中に32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。</p> <p>なお、論文準修士称号保有者については、MOT部門の科目を4科目8単位まで修了要件単位に算入することができる。</p>				
	博 士 後 期 課 程	必修	演習・研究	情報システム工学特別演習Ⅲ 情報システム工学特別研究	2 12	通年 通年	
		修了要件	<p>博士後期課程に3年以上在学し、14単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。</p>				

4. 環境工学専攻

課程	区分	部 門	授 業 科 目	単位数	学期	備 考	
博 士 前 期 課 程	必修	教 養	高 度 実 践 英 語 高 科 学 技 術 語 論	2 2	前期 後期		
	選択 必修	M O T	技 術 経 営 論 I 地 域 産 業 論 技 術 経 営 論 II 創 造 性 開 発 研 究	2 2 2 2	前期 後期 前期 後期	} 1科目2単位 以上必修 (1科目2単位のみ) (修了要件に算入可)	
		水循環工学	環 境 モ デ リ ン グ 土 壌 水 圏 科 学 大 気 物 理 化 学 環 境 リ ス ク 管 理 工 学 環 境 応 用 生 態 学 水 資 源 シ ス テ ム 論	2 2 2 2 2 2	前期 前期 後期 後期 後期 前期		
		選択 資源循環工学・ 環境政策工学	大 気 環 境 学 廃 棄 物 資 源 学 物 質 循 環 解 析 学 環 境 エ ネ ル ギ ー シ ス テ ム 学 環 境 経 営 学 環 境 政 策 学 環 境 ・ 技 術 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論 環 境 技 術 シ ス テ ム 論	2 2 2 2 2 2 2 2	前期 前期 後期 後期 前期 後期 後期 前期	各部門から1科目 2単位以上修得。 ただし、環境リス ク管理工学、環境 経営学及び建設マ ネジメント論のう ち2単位以上修得。	
		環境デザイン 工 学	応 用 土 質 工 学 応 用 コ ン ク リ ー ト 工 学 環 境 計 画 論 流 域 保 全 学 土 木 事 業 施 工 論 建 設 マ ネ ジ メ ン ト 論	2 2 2 2 2 2	後期 前期 前期 後期 前期 後期		
		選択 専 攻 共 通	環 境 国 際 技 術 協 力 論 イ ン タ ー ナ シ ョ ン 論	2 2	前期 前期	オムニバス	
		必修 演習・研究	環 境 工 学 特 別 演 習 I 環 境 工 学 特 別 演 習 II 環 境 工 学 特 別 研 究	2 2 8	通年 通年 通年		
		修 了 要 件	<p>博士前期課程に2年以上在学して当該期間中に32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。</p> <p>なお、論文準修士称号保有者については、MOT部門の科目を4科目8単位まで修了要件単位に算入することができる。</p>				
	博 士 後 期 課 程	必修 演習・研究	環 境 工 学 特 別 演 習 III 環 境 工 学 特 別 研 究	2 12	通年 通年		
		修 了 要 件	<p>博士後期課程に3年以上在学し、14単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。</p>				

5. 生物工学専攻

課程	区分	部 門	授 業 科 目	単位数	学期	備 考	
博 士 前 期 課 程	必修	教 養	高 度 実 践 英 語 高 科 学 技 術 語 論	2 2	前期 後期		
	選択 必修	M O T	技 術 経 営 論 I 地 域 産 業 論 技 術 経 営 論 II 創 造 性 開 発 研 究	2 2 2 2	前期 後期 前期 後期	} 1科目2単位 以上必修 (1科目2単位のみ) (修了要件に算入可)	
	選 択	酵素化学工学	酵 素 化 学 工 学	2	前期		
		応用生物 プロセス学	応 用 生 物 プ ロ セ ス 学 蛋 白 質 科 学	2 2	前期 後期		H29年度は開講せず
		微生物工学	微 生 物 工 学	2	前期		
		生物有機化学	生 物 有 機 化 学	2	後期		
		機能性食品 工 学	機 能 性 食 品 工 学	2	前期		
		植物機能工学	植 物 機 能 工 学 植 物 生 化 学	2 2	後期 後期	H29年度は開講せず	
		応用生物 情 報 学	応 用 生 物 情 報 学	2	前期		
		製薬化学工学	製 薬 化 学 工 学	2	後期		
		バイオ医薬品 工 学	バ イ オ 医 薬 品 工 学	2	前期		
		そ の 他	先 端 バ イ オ 計 測 法	2	前期	知能デザイン工学専攻と同時開講	
	必修	演習・研究	生 物 工 学 特 別 演 習 I 生 物 工 学 特 別 演 習 II 生 物 工 学 特 別 研 究	2 2 8	通年 通年 通年		
		修 了 要 件	博士前期課程に2年以上在学して当該期間中に32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。 なお、論文準修士称号保有者については、MOT部門の科目を4科目8単位まで修了要件単位に算入することができる。				
	博 士 後 期 課 程	必修	演習・研究	生 物 工 学 特 別 演 習 III 生 物 工 学 特 別 研 究	2 12	通年 通年	
			修 了 要 件	博士後期課程に3年以上在学し、14単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。			

VII 授業科目(特別演習・特別研究)の説明 (シラバス)及び研究指導計画

講義科目のシラバスについては、講義支援システム「エスプリ」に掲載されています。エスプリを使って、内容の確認等を行ってください。(閲覧方法等については、P.87を参照してください。)

なお、シラバスを印刷したい場合は、シラバス帳票発行システムを利用してください。

(印刷方法は、P.92を参照してください。)

授業科目（演習・研究）の説明記載頁一覧

※講義科目については、エスプリに掲載されています。

《機械システム工学専攻》

1. 博士前期課程

機械システム工学特別演習Ⅰ（1年・通年・必修・2単位）	各教員	35
機械システム工学特別演習Ⅱ（2年・通年・必修・2単位）	各教員	35
機械システム工学特別研究（1～2年・通年・必修・8単位）	各教員	36
研究指導計画		37

2. 博士後期課程

機械システム工学特別演習Ⅲ（1年・通年・必修・2単位）	各教員	38
機械システム工学特別研究（1～3年・通年・必修・12単位）	各教員	38
研究指導計画		39

《知能デザイン工学専攻》

1. 博士前期課程

知能デザイン工学特別演習Ⅰ（1年・通年・必修・2単位）	各教員	40
知能デザイン工学特別演習Ⅱ（2年・通年・必修・2単位）	各教員	40
知能デザイン工学特別研究（1～2年・通年・必修・8単位）	各教員	41
研究指導計画		42

2. 博士後期課程

知能デザイン工学特別演習Ⅲ（1年・通年・必修・2単位）	各教員	43
知能デザイン工学特別研究（1～3年・通年・必修・12単位）	各教員	43
研究指導計画		44

《情報システム工学専攻》

1. 博士前期課程

情報システム工学特別演習Ⅰ（1年・通年・必修・2単位）	各教員	45
情報システム工学特別演習Ⅱ（2年・通年・必修・2単位）	各教員	45
情報システム工学特別研究（1～2年・通年・必修・8単位）	各教員	46
研究指導計画		47

2. 博士後期課程

情報システム工学特別演習Ⅲ（1年・通年・必修・2単位）	各教員	48
情報システム工学特別研究（1～3年・通年・必修・12単位）	各教員	48
研究指導計画		49

《環境工学専攻》

1. 博士前期課程

環境工学特別演習Ⅰ（1年・通年・必修・2単位）	各教員	50
環境工学特別演習Ⅱ（2年・通年・必修・2単位）	各教員	50
環境工学特別研究（1～2年・通年・必修・8単位）	各教員	51
研究指導計画		52

2. 博士後期課程

環境工学特別演習Ⅲ（1年・通年・必修・2単位）	各教員	53
環境工学特別研究（1～3年・通年・必修・12単位）	各教員	53
研究指導計画		54

《生物学専攻》

1. 博士前期課程

生物学特別演習Ⅰ（1年・通年・必修・2単位）	各教員	55
生物学特別演習Ⅱ（2年・通年・必修・2単位）	各教員	55
生物学特別研究（1～2年・通年・必修・8単位）	各教員	56
研究指導計画		57

2. 博士後期課程

生物学特別演習Ⅲ（1年・通年・必修・2単位）	各教員	58
生物学特別研究（1～3年・通年・必修・12単位）	各教員	58
研究指導計画		59

≪機械システム工学専攻≫

1. 博士前期課程

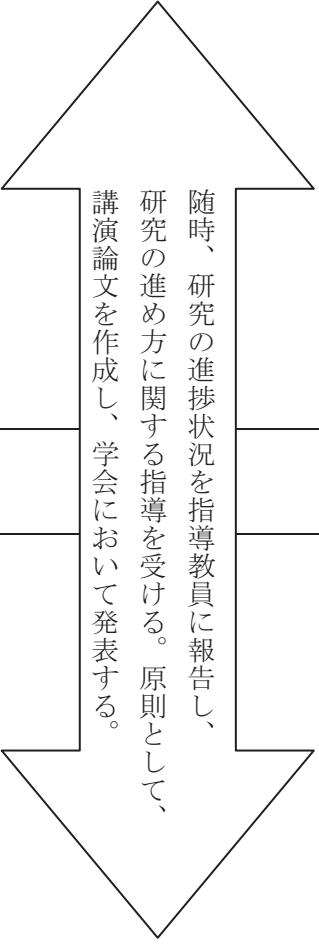

機械システム工学特別演習Ⅰ Exercise of Mechanical Systems Engineering I		開講年次・開講期	1年・通年
		単位区分・単位数	必修・2単位
担当教員	各教員	関連する学習・教育目標	(B) - 2
概要	修士論文の研究遂行のために必要となる当該分野および周辺分野の基礎的知識および応用能力を養成するために、セミナー形式で基礎的課題についての演習・発表・討論を行う。		
達成目標	修士論文テーマを含む分野および周辺分野の基礎的知識とその応用能力を身につけること。基礎的課題に関する内容を発表し、的確な質疑応答ができるようになること。		
授業計画	定期的に行われるセミナーにおいて、テキスト、基本文献等の輪読、発表および質疑を行う。		
成績評価基準	基礎的課題の理解度（60%）、的確な発表や討論を行う能力（40%）により評価する。		
教科書参考文献等その他	適宜指示する。		

機械システム工学特別演習Ⅱ Exercise of Mechanical Systems Engineering II		開講年次・開講期	2年・通年
		単位区分・単位数	必修・2単位
担当教員	各教員	関連する学習・教育目標	(B) - 2
概要	修士論文の作成に必要な研究方法を見出す能力や問題解決能力の養成を目的として、具体的研究課題（研究テーマ）に関連する研究手法や課題解決手法について演習・討論を行う。		
達成目標	修士論文テーマの研究遂行のための方法、問題が生じた場合の解決方法などを学び、実際の研究遂行に生かせるようになること。研究経過などを発表し、的確な討論を行うことができるようになること。		
授業計画	定期的に行われるセミナーにおいて、テキスト、基本文献等の輪読、発表および質疑を行う。		
成績評価基準	報告内容に対する理解度（60%）、的確な発表や討論を行う能力（40%）により評価する。		
教科書参考文献等その他	適宜指示する。		

機械システム工学特別研究 Advanced Research for Master of Mechanical Systems Engineering		開講年次・開講期	1～2年・通年
		単位区分・単位数	必修・8単位
担当教員	各教員	関連する学習・教育目標	(B) - 3
概要	機械システム工学専攻の理念・教育目標に沿った内容の研究テーマを設定し、研究を行い、修士論文としてまとめる能力と研究成果を得る。		
達成目標	研究の遂行を通して、研究方法を見出し実施する能力、問題に対応し解決する能力を身につける。科学・技術論文の作成・研究発表能力を身につけ、的確な質疑応答ができるようになること。研究テーマだけでなく、専攻の教育理念に沿った周辺分野にも知識と理解をもつようになること。		
授業計画	研究指導計画による。		
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> a 研究の背景（関連分野の現状）、研究の位置づけと目的を明確に理解している。 b 研究手法と得られた結果についての理解が十分である。 c 結果の解釈が適切で、新しい知見が得られている。 d 研究の将来の発展性が認められる。 e 的確な発表・討論ができる。 以上の5項目により総合的に評価する。		
教科書参考文献その他	指導教員から適宜指示する。		

研究指導計画

機械・博士前期課程

学年	月	スケジュール
M 1	4	指導教員決定
	5	研究テーマの決定、実施計画の策定
	6	 <p>随時、研究の進捗状況を指導教員に報告し、研究の進め方に関する指導を受ける。原則として、講演論文を作成し、学会において発表する。</p>
	7	
	8	
	9	
	10	
	11	
	12	
	1	
	2	
	3	
	M 2	4
5		 <p>修士論文の作成、審査会に向けた発表準備を行う。</p>
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
1		修士論文提出 審査委員による審査 修士論文審査会
2		
3		

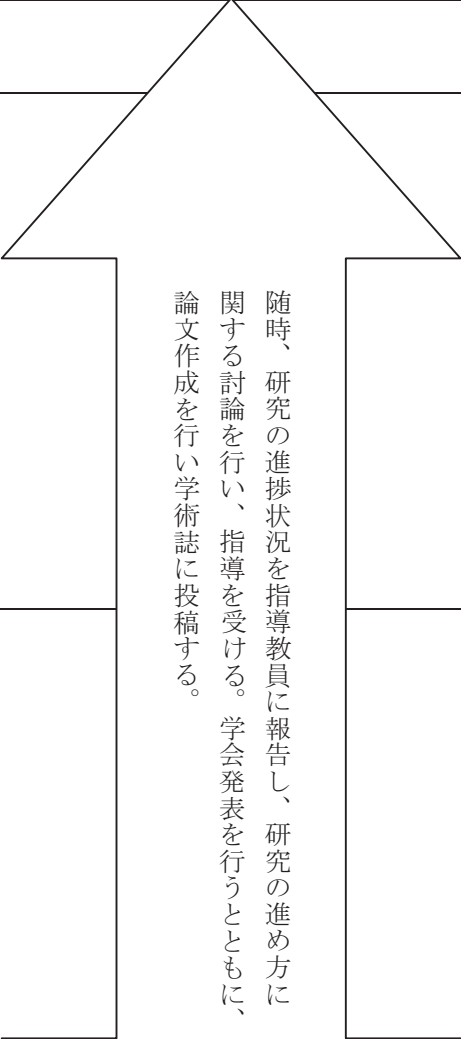
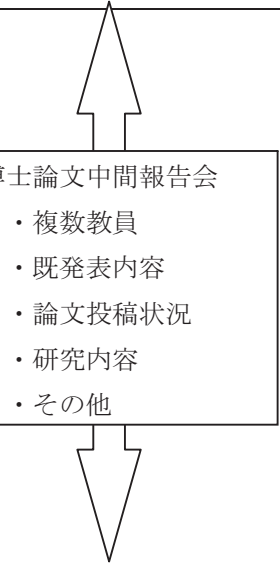
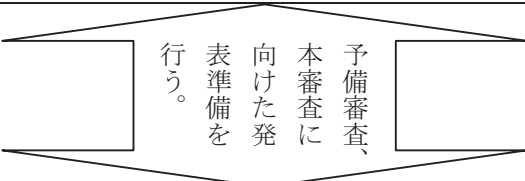
2. 博士後期課程

機械システム工学特別演習Ⅲ Exercise of Mechanical Systems Engineering Ⅲ		開講年次・開講期	1年・通年
		単位区分・単位数	必修・2単位
担当教員	各教員	関連する学習・教育目標	(B) - 2
概要	博士の学位論文を作成するために必要な課題設定能力の養成、課題解決能力の向上を目的として、具体的な研究テーマの設定、研究遂行プロセスについて演習・討論を行う。		
達成目標	博士論文テーマを設定し、研究計画を立て、問題を自ら解決していく能力を身につけること。学術的に的確な討論ができる能力を身につけること。		
授業計画	毎週行われるセミナーにおいて、文献の発表、研究の中間報告などを行い、討論する。		
成績評価基準	報告内容に対する理解度（60%）、発表・討論の能力（40%）により評価する。		
教科書参考文献その他	適宜指示する。		

機械システム工学特別研究 Advanced Research for Doctor of Mechanical Systems Engineering		開講年次・開講期	1～3年・通年
		単位区分・単位数	必修・12単位
担当教員	各教員	関連する学習・教育目標	(B) - 3
概要	機械システム工学専攻の理念・教育目標に沿った内容の研究テーマを設定し、研究を行い、博士論文としてまとめる能力と研究成果を得る。		
達成目標	<p>①研究を通して、課題を設定する能力、研究方法を設定し実施する能力ならびに問題に対応し解決する能力を向上させ、独立して研究を遂行できる能力を身につける。</p> <p>②博士論文をまとめるに足る成果を得ること。</p> <p>研究テーマの内容を含む分野だけでなく、周辺分野にも全般的な広い知識と関心を持ち、機械工学およびその他の融合あるいは境界分野の進歩にも対応できる技術者・研究者としての能力を身につける。</p>		
授業計画	研究指導計画による。		
成績評価基準	<p>a 研究の内容を含む分野および周辺分野に関して十分な全般的知識を持つことが認められる。</p> <p>b 研究手法、得られた結果とその解釈が適切である。</p> <p>c 内容に独創性または新規性が認められ、工学的な価値が認められる。</p> <p>d 学術研究にふさわしい討論ができる。</p> <p>e 独立して研究を遂行できる能力を持つと判断される。</p> <p>以上5項目により、総合的に評価する。</p>		
教科書参考文献その他	指導教員から適宜指示する。		

研究指導計画

機械・博士後期課程

学年	月	スケジュール	
D 1	4	指導教員決定 研究テーマの決定、実施計画の策定	
	5	 <p>随時、研究の進捗状況を指導教員に報告し、研究の進め方に関する討論を行い、指導を受ける。学会発表を行うとともに、論文作成を行い学術誌に投稿する。</p>	
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	1		
	2		
	3		
	D 2		4
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
1			
2			
3			
D 3		4	
	5		
	6		
	7		
	8		
	9	予備検討出願	
	10	予備検討委員会による審査	
	11		
	12		12月第1木曜日 審査申請
	1	1月末までに 審査委員会による審査 公聴会の開催	
	2		
	3		

《《知能デザイン工学専攻》》

1. 博士前期課程

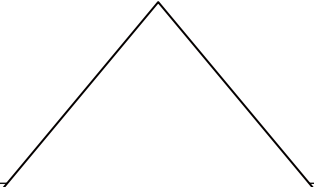
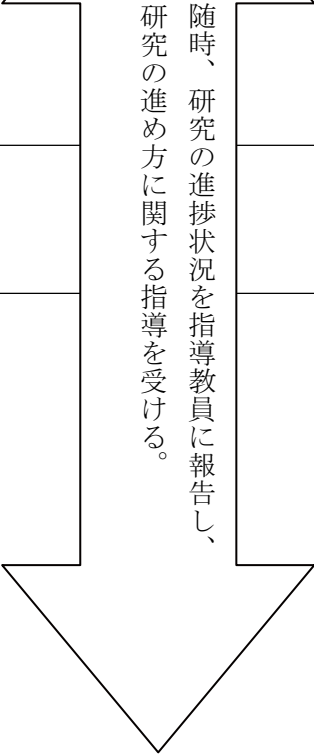
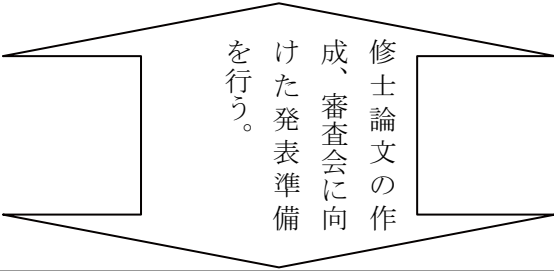
知能デザイン工学特別演習Ⅰ Exercise of Intelligent Systems Design Engineering I		開講年次・開講期	1年・通年
		単位区分・単位数	必修・2単位
担当教員	各教員	関連する学習・教育目標	1, 2, 4
概要	修士論文の研究遂行のために必要な当該分野および周辺分野の基礎的知識と応用能力を養うために、セミナー形式で演習・発表・討論を行う。		
達成目標	修士論文テーマとその周辺分野の基礎的知識とその応用能力を身につける。セミナーにおいて、適切な発表と的確な質疑応答ができる。		
授業計画	セミナーにおいて、テキスト、基本文献等の輪読、発表および質疑を行う。 (研究指導計画) 4～6月 修士論文テーマ分野の基礎に関する演習・発表・討論 7～8月 修士論文テーマ分野の応用に関する演習・発表・討論 10～2月 修士論文テーマ周辺分野の基礎と応用に関する演習・発表・討論		
成績評価基準	発表の適切さ(50%)と討論の貢献度合い(50%)により、「優・良・可・不可」で評価する。		
教科書参考文献等その他	教科書、参考文献等については別途指示する。		

知能デザイン工学特別演習Ⅱ Exercise of Intelligent Systems Design Engineering II		開講年次・開講期	2年・通年
		単位区分・単位数	必修・2単位
担当教員	各教員	関連する学習・教育目標	1, 2, 3, 4, 5
概要	修士論文の研究遂行のために必要となる研究方法を見出す能力や問題解決能力の養成を目的として、具体的研究課題(研究テーマ)に関連する研究手法や課題解決手法について演習・討論を行う。		
達成目標	修士論文テーマの研究遂行のための方法、問題が生じた場合の解決方法などを学び、実際の研究遂行に生かせるようになること。研究経過などを発表し、的確な討論を行うことができるようになること。		
授業計画	セミナーにおいて、研究の進捗状況報告や関連論文の紹介などを行い、指導教員と討論する。		
成績評価基準	セミナーでの報告や発表(50%)と討論への貢献度合い(50%)により、「優・良・可・不可」で評価する。		
教科書参考文献等その他	教科書、参考文献等については別途指示する。		

知能デザイン工学特別研究 Advanced Research for Master of Intelligent Systems Design Engineering		開講年次・開講期	1～2年・通年
		単位区分・単位数	必修・8単位
担当教員	各教員	関連する学習・教育目標	1, 2, 3, 4, 5
概要	知能デザイン工学に関する研究テーマを設定し、研究を実施し、修士論文としてまとめる能力と研究成果を得ること。		
達成目標	指導教員と相談して、研究方法を見出してそれを実施し、研究を進める中で遭遇するさまざまな問題を解決することができる。科学・技術論文が書け、研究発表ができ、的確な質疑応答ができる。自分の研究テーマだけでなく、周辺分野の知識についても理解できる。		
授業計画	研究指導計画による。		
成績評価基準	a 研究の背景（関連分野の現状）、研究の位置づけと目的を明確に理解している。 b 研究手法と得られた結果についての理解が十分である。 c 結果の解釈が適切で、新しい知見が得られている。 d 研究の将来の発展性が認められる。 e 的確な発表・討論ができる。 上記5項目により、総合的に判断する。		
教科書参考文献その他	別途指示する。		

研究指導計画

知能・博士前期課程

学年	月	スケジュール	
M 1	4	指導教員決定	
	5	研究テーマの決定、実施計画の策定	
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11	修士論文中間発表会 (研究の進捗状況、今後の計画など)	
	12		
	1		
	2		
	3		
	4		
5			
6			
M 2	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	1		
	2		修士論文提出 審査委員による修士論文審査会
	3		

随時、研究の進捗状況を指導教員に報告し、研究の進め方に関する指導を受ける。

修士論文の作成、審査会に向けた発表準備を行う。

2. 博士後期課程

知能デザイン工学特別演習Ⅲ Exercise of Intelligent Systems Design Engineering Ⅲ		開講年次・開講期	1年・通年
		単位区分・単位数	必修・2単位
担当教員	各教員	関連する学習・教育目標	1, 2, 3, 4, 5
概要	博士論文をまとめるために必要な研究課題の設定能力、研究計画の立案能力、研究構想の提案能力および研究遂行上の問題解決能力を向上させるために、研究テーマの設定と研究計画の立案、研究構想の提案、研究の進捗報告などについて演習・討論を行う。		
達成目標	博士論文テーマを設定し、研究計画を立て、問題を自ら解決していく能力を身につけること。学術的に的確な討論ができる能力を身につける。		
授業計画	セミナーにおいて、研究の構想発表、研究進捗状況の報告および関連文献の紹介などを行い、討論する。		
成績評価基準	セミナーでの研究構想進捗発表の適切さ（50％）と討論の適切さ（50％）により「優・良・可・不可」で評価する。		
教科書参考文献その他	教科書、参考文献等については別途指示する。		

知能デザイン工学特別研究 Advanced Research for Doctor of Intelligent Systems Design Engineering		開講年次・開講期	1～3年・通年
		単位区分・単位数	必修・12単位
担当教員	各教員	関連する学習・教育目標	1, 2, 3, 4, 5
概要	知能デザイン工学に関する研究テーマを設定し、研究を実施し、博士論文としてまとめる能力と研究成果を得ること。		
達成目標	研究テーマの設定、研究計画の構想・提案、研究の遂行、研究上の問題解決が主体的にできる。 査読のある学术论文を執筆でき、学会での研究発表と的確な質疑応答ができる。 自らの研究分野に加えて、関連する分野についても理解できる。		
授業計画	研究指導計画による。		
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> a 研究の内容を含む分野および周辺分野に関して十分な全般的知識を持つことが認められる。 b 研究手法、得られた結果とその解釈が適切である。 c 内容に独創性または新規性が認められ、工学的な価値が認められる。 d 学術研究にふさわしい討論ができる。 e 独立して研究を遂行できる能力を持つと判断される。 上記5項目により、総合的に評価する。		
教科書参考文献その他	別途指示する。		

研究指導計画

知能・博士後期課程

学年	月	スケジュール
D 1	4	指導教員決定、研究テーマの決定
	5	研究計画策定
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	研究構想発表
	11	
	12	
	1	
	2	
	3	
	D 2	4
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		中間発表
12		
1		
2		
3		
D 3		4
	5	
	6	
	7	
	8	
	9	9月第1木曜日 予備検討出願
	10	予備検討委員会による審査
	11	
	12	12月第1木曜日 審査申請
	1	1月末までに 審査委員会による審査 最終試験、公聴会の開催
	2	
	3	

随時、研究の進捗状況を指導教員に報告し、研究の進め方に関する討議を行い、指導を受ける。

博士論文の作成、予備審査に向けた準備

博士論文の作成、予備審査、博士論文提出

《情報システム工学専攻》

1. 博士前期課程

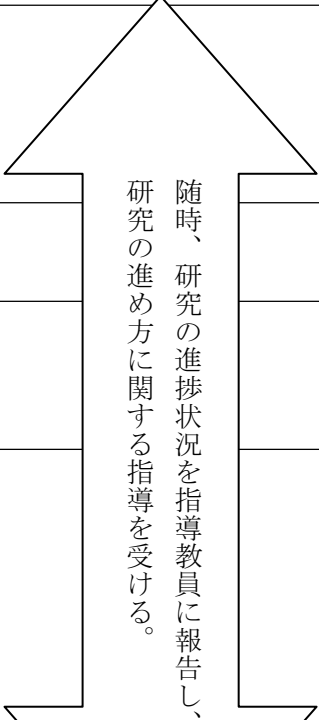
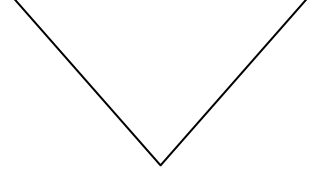
情報システム工学特別演習Ⅰ Exercise of Information Systems Engineering I		開講年次・開講期	1年・通年
		単位区分・単位数	必修・2単位
担当教員	各教員	関連する学習・教育目標	A, B-1, C-1, C-2, C-3, D-1, E-1
概要	研究テーマの遂行に必要な目標達成プロセスを発見する能力を養成することを目的として、各研究テーマで発生する問題の解決について、セミナー形式による演習・発表・討論を行う。		
達成目標	①修士論文テーマを含む分野および周辺分野の基礎的知識とその応用能力を身につける。 ②基礎的課題に関する内容を発表し、的確な質疑応答ができるようになる。		
授業計画	研究室で行われるセミナーにおいて、テキスト、基本文献等の輪読、発表および質疑を行うと共に、中間発表で研究の進捗と計画を発表する。		
成績評価基準	基礎的課題の理解度（40%）、的確な発表や討論を行う能力（60%）により評価する。		
教科書参考文献等その他	適宜指示する。 参考文献については、常に自身で関連する文献を探索すること。 また、指導教員と連絡を密にして進めること。		

情報システム工学特別演習Ⅱ Exercise of Information Systems Engineering II		開講年次・開講期	2年・通年
		単位区分・単位数	必修・2単位
担当教員	各教員	関連する学習・教育目標	A, B-2, C-2, C-3, D-1, E-1, E-3
概要	修士論文の作成に必要な研究方法を見出す能力や問題解決能力の養成を目的として、具体的研究課題（研究テーマ）に関連する研究手法や課題解決手法について演習・発表・討論を行う。		
達成目標	①修士論文テーマの研究遂行のための方法、問題が生じた場合の解決方法などを学び、実際の研究遂行に生かせるようになる。 ②研究経過などを発表し、的確な討論を行うことができるようになる。		
授業計画	研究室で行われるセミナーにおいて、文献の発表、研究の中間報告などを行い、討論する。		
成績評価基準	報告内容に対する理解度（40%）、的確な発表や討論を行う能力（60%）により評価する。		
教科書参考文献等その他	適宜指示する。 参考文献については、常に自身で関連する文献を探索すること。 また、指導教員と連絡を密にして進めること。		

情報システム工学特別研究 Advanced Research for Master of Information Systems Engineering		開講年次・開講期	1～2年・通年
		単位区分・単位数	必修・8単位
担当教員	各教員	関連する学習・教育目標	A, C-1, C-2, C-3, D-2, E-1, E-2
概要	情報システム工学専攻の理念・教育目標に沿った内容の研究テーマを設定し、研究を指導する。また、得られた研究成果を修士論文としてまとめる能力を育成する。		
達成目標	<p>①研究の遂行を通して、研究方法を見出し実施する能力、問題に対応し解決する能力を身につける。</p> <p>②科学・技術論文の作成・研究発表能力を身につけ、的確な質疑応答ができる能力を身に付ける。</p> <p>③研究テーマだけでなく、専攻の教育理念に沿った周辺分野にも知識と理解をもつ態度を身に付ける。</p>		
授業計画	研究指導計画に従って、情報ネットワークの高度化・高速化、マルチメディア情報処理、情報機器のインテリジェント化・高度化、地球環境情報処理など、今後の高度情報社会において重要な分野の研究を行う。		
成績評価基準	<p>以下の評価項目に対する5段階（3を基準）をもとに、総合評価を実施する。なお、総合評価については、優、良、可、不可で行う。</p> <p>a 研究の背景（関連分野の現状）、研究の位置づけと目的を明確に理解している。</p> <p>b 研究手法と得られた結果についての理解が十分である。</p> <p>c 結果の解釈が適切で、新しい知見が得られている。</p> <p>d 研究の将来の発展性が認められる。</p> <p>e 的確な発表・討論ができる。</p>		
教科書 参考文献 その他	教科書、参考文献については適宜指示する。 また、指導教員と連絡を密にして進めること。		

研究指導計画

情報・博士前期課程

学年	月	スケジュール	
M 1	4	指導教員決定	
	5	研究テーマの決定、	
	6	実施計画書の策定	
	7	 <p>随時、研究の進捗状況を指導教員に報告し、 研究の進め方に関する指導を受ける。</p>	
	8		
	9		
	10		
	11		修士論文中間発表会
	12		(研究の進捗状況、今後の計画など)
	1		
	2		
	3		
	M 2	4	 <p>修士論文の 作成、審査 会に向けた 発表準備を 行う。</p>
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
1			
2		修士論文提出 審査委員による審査 修士論文審査発表会	
3			

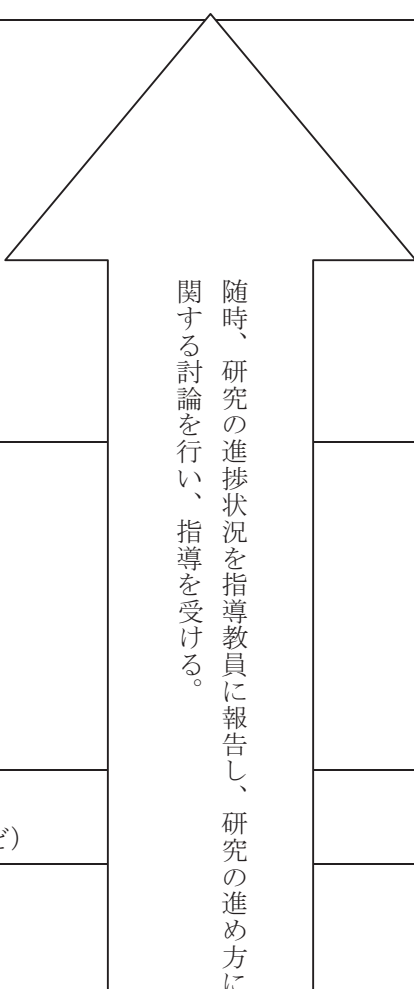
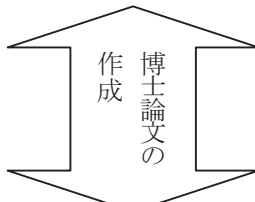
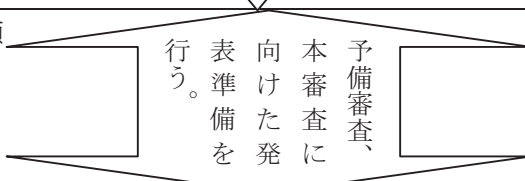
2. 博士後期課程

情報システム工学特別演習Ⅲ Exercise of Information Systems Engineering Ⅲ		開講年次・開講期	1年・通年
		単位区分・単位数	必修・2単位
担当教員	各教員	関連する学習・教育目標	A, B-1, C-2, C-3, D-1, E-1
概要	博士の学位論文を作成するために必要な課題設定能力の養成、課題解決能力の向上を目的として、具体的研究テーマの設定、研究遂行プロセスについて演習・討論を行う。		
達成目標	①博士論文テーマを設定し、研究計画を立て、問題を自ら解決していく能力を身につける。 ②学術的に的確な討論ができる能力を身につける。		
授業計画	毎週行われるセミナーにおいて、文献の発表、研究の中間報告などを行い、討論する。		
成績評価基準	報告内容に対する理解度（50%）、発表・討論の能力（50%）により評価する。		
教科書参考文献その他	適宜指示する。 また、指導教員と連絡を密にして進めること。		

情報システム工学特別研究 Advanced Research for Doctor of Information Systems Engineering		開講年次・開講期	1～3年・通年
		単位区分・単位数	必修・12単位
担当教員	各教員	関連する学習・教育目標	A, B-2, C-2, C-3, D-1, D-2, E-1
概要	情報システム工学専攻の理念・教育目標に沿った内容の研究テーマを設定し、研究を指導する。また、得られた研究成果を博士論文としてまとめる能力を育成する。		
達成目標	①課題を設定する能力、研究方法を見出し実施する能力ならびに問題に対応し解決する能力を向上させ、独立して研究を遂行できる能力を身につける。 ②博士論文をまとめるに足る成果を得る。 ③周辺分野にも全般的な広い知識と関心を持ち、機械工学・電子工学・情報工学の融合・境界分野にも対応できる技術者・研究者としての能力を身につける。		
授業計画	研究指導計画に従って、情報ネットワークの高度化・高速化、マルチメディア情報処理、情報機器のインテリジェント化・高度化、バイオ情報・地球環境情報処理など、今後の高度情報社会において重要な分野の研究を行う。		
成績評価基準	以下の評価項目に対する5段階（3を基準）をもとに、総合評価を実施する。なお、総合評価については、優、良、可、不可で行う。 a 研究の内容を含む分野に関して十分な全般的知識を持っていることが認められる。 b 研究手法、得られた結果とその解釈が適切である。 c 内容に独創性または新規性が認められ、工学的な価値が認められる。 d 学術研究にふさわしい発表・討論ができる。 e 独立して研究を遂行できる能力を持っていると判断される。		
教科書参考文献その他	教科書、参考文献については適宜指示する。 また、指導教員と連絡を密にして進めること。		

研究指導計画

情報・博士後期課程

学年	月	スケジュール	
D 1	4	研究テーマの決定	
	5	指導教員決定	
	6	研究計画書の策定	
	7	<div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; height: 100%;">  </div>	
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	1		
	2		
	3		
	D 2		4
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11		博士論文中間発表会	
12		(研究の進捗状況、今後の計画など)	
1			
2			
3			
D 3		4	<div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; height: 100%;">  </div>
	5		
	6		
	7		
	8		
	9	9月第1木曜日 予備検討出願	
	10	予備検討委員会による審査	
	11	<div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; height: 100%;">  </div>	
	12		12月第1木曜日 審査申請
	1	1月末までに 審査委員会による審査 公聴会の開催	
	2		
	3		

《環境工学専攻》

1. 博士前期課程

環境工学特別演習 I Exercise of Environmental Engineering I		開講年次・開講期	1～2年・通年
		単位区分・単位数	必修・8単位
担当教員	各教員	関連する学習・教育目標	2, 3
概要	修士論文の研究遂行のために必要となる当該分野および周辺分野の基礎的知識および応用能力を養成するために、セミナー形式で基礎的課題についての演習・発表・討議を行う。		
達成目標	修士論文テーマを含む分野および周辺分野の基礎的知識とその応用能力を身につけること。基礎的課題に関する内容を発表し、的確な質疑応答ができるようになること。		
授業計画	毎週行われるセミナーにおいて、テキスト、基本文献等の輪読、発表および質疑を行う。		
成績評価基準	基礎的課題の理解度、的確な発表や討議を行う能力により評価する。		
教科書参考文献その他	教科書、参考文献等については別途指示する。		

環境工学特別演習 II Exercise of Environmental Engineering II		開講年次・開講期	1～2年・通年
		単位区分・単位数	必修・8単位
担当教員	各教員	関連する学習・教育目標	1, 3
概要	修士論文の作成に必要な研究方法を見出す能力や問題解決能力の養成を目的として、具体的研究課題（研究テーマ）に関連する研究手法や課題解決手法について演習・討議を行う。		
達成目標	修士論文テーマの研究遂行のための方法、問題が生じた場合の解決方法などを学び、実際の研究遂行に生かせるようになること。研究経過などを発表し、的確な討議を行うことができるようになること。		
授業計画	毎週行われるセミナーにおいて、文献の発表、研究の中間報告などを行い、討議する。		
成績評価基準	報告内容に対する理解度、的確な発表や討議を行う能力により評価する。		
教科書参考文献その他	教科書、参考文献等については別途指示する。		

環境工学特別研究 Advanced Research for Master of Environmental Engineering		開講年次・開講期	1～2年・通年
		単位区分・単位数	必修・8単位
担当教員	各教員	関連する学習・教育目標	1～5
概要	環境工学専攻の理念・教育目標に沿った内容の研究テーマを設定し、研究を行い、修士論文としてまとめる能力と研究成果を得ること。		
達成目標	研究の遂行を通して、研究方法を見出し実施する能力、問題に対応し、解決する能力を身につける。科学・技術論文の作成・研究発表能力を身につけ、的確な質疑応答ができるようになること。研究テーマだけでなく、専攻の教育理念に沿った周辺分野にも知識と理解をもつようになること。		
授業計画	研究指導計画による。		
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> a 研究の背景（関連分野の現状）、研究の位置づけと目的を明確に理解している。 b 研究手法と得られた結果についての理解が十分である。 c 結果の解釈が適切で、新しい知見が得られている。 d 研究の将来の発展性が認められる。 e 的確な発表・討論ができる。 		
教科書 参考文献等 その他	適宜指示する。		

研究指導計画

環境・博士前期課程

学年	月	スケジュール	
M 1	4	指導教員決定	
	5	研究テーマの決定、実施計画の策定	
	6	<p>随時、研究の進捗状況を指導教員に報告し、 研究の進め方に関する指導を受ける。</p>	
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	1		
	2		修士論文中間発表会
	3		
M 2	4	(研究の進捗状況、今後の計画など)	
	5	<p>修士論文の作成、審査会に 向けた発表準備を行う。</p>	
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	1		
	2	修士論文提出 審査委員による審査 修士論文審査発表会	
	3		

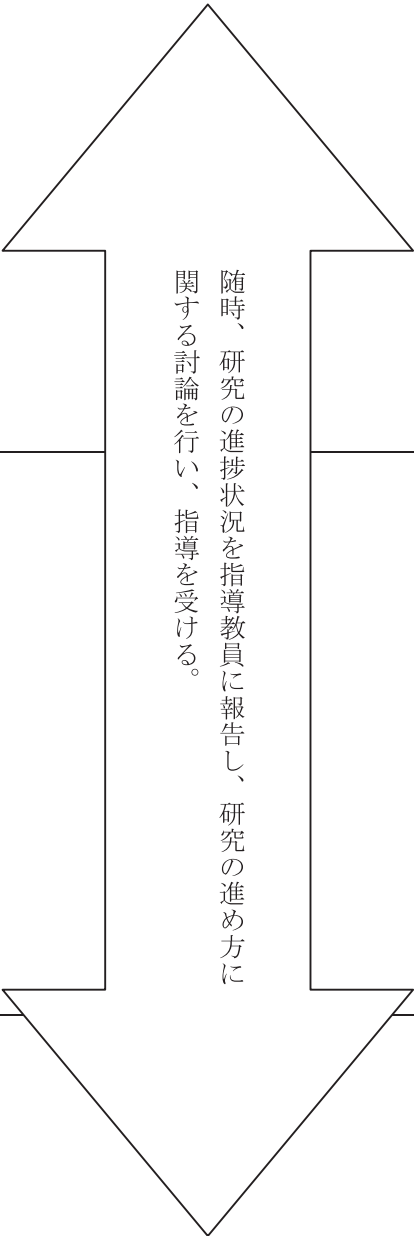
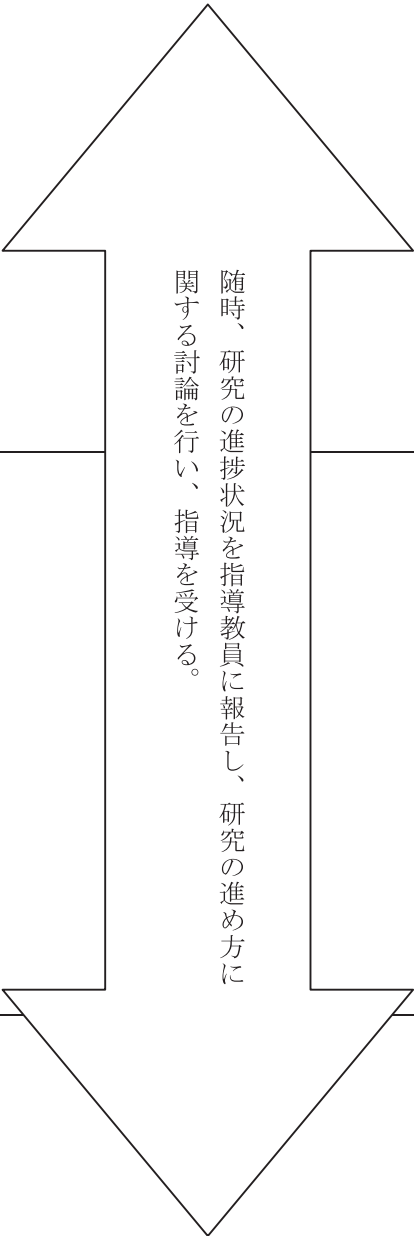
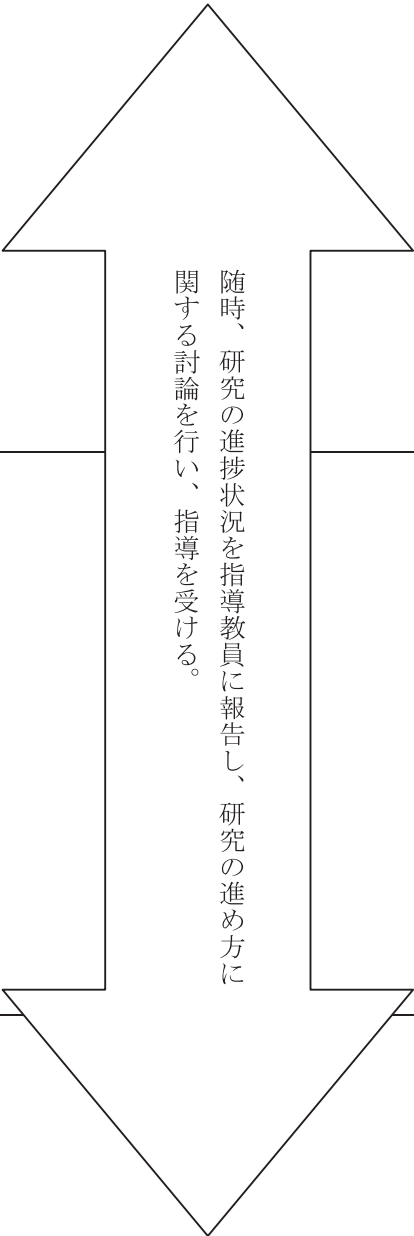
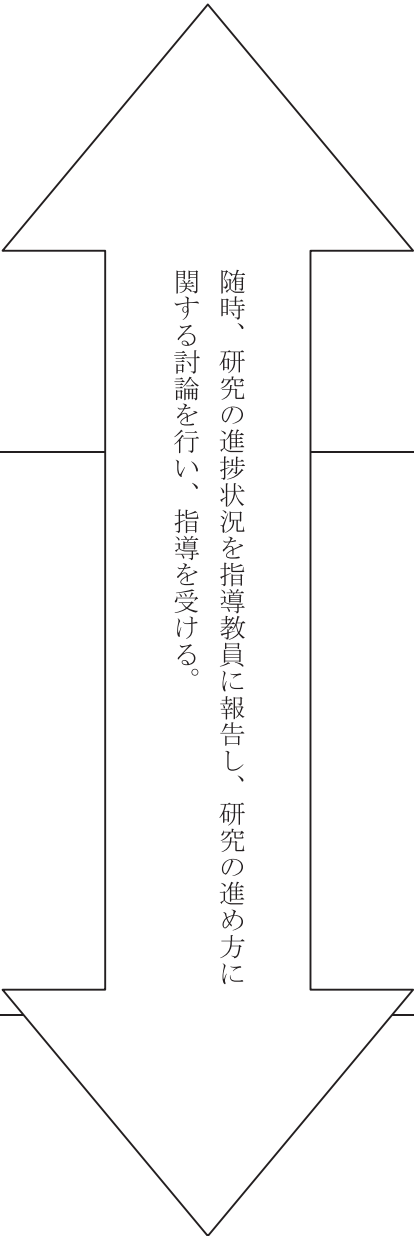
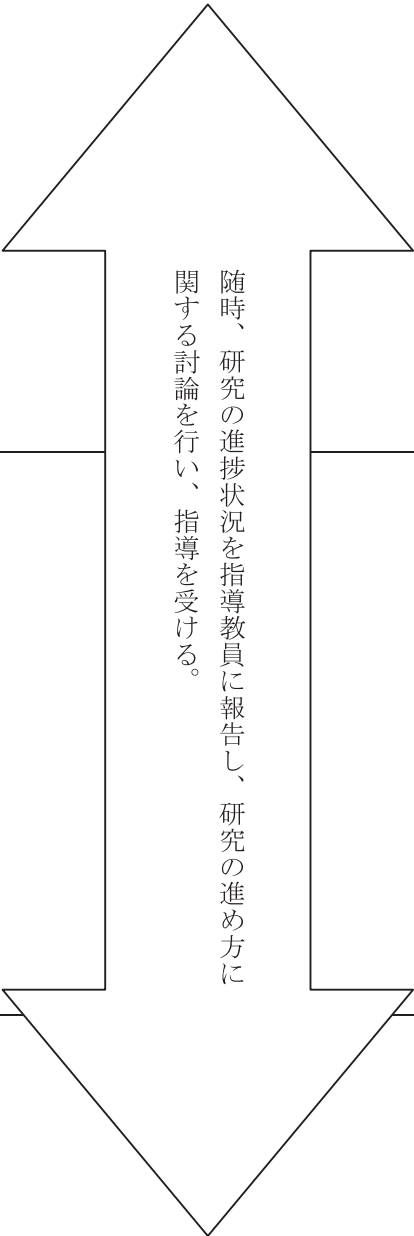
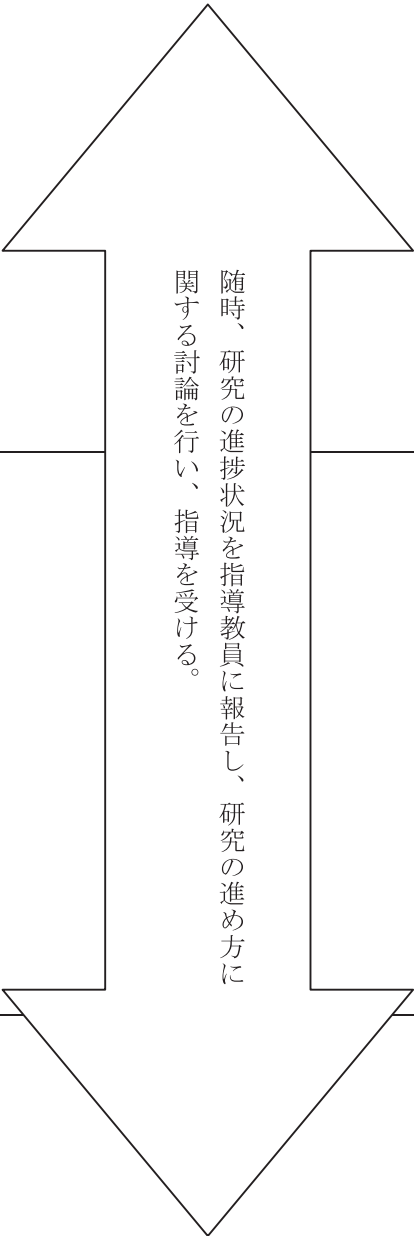
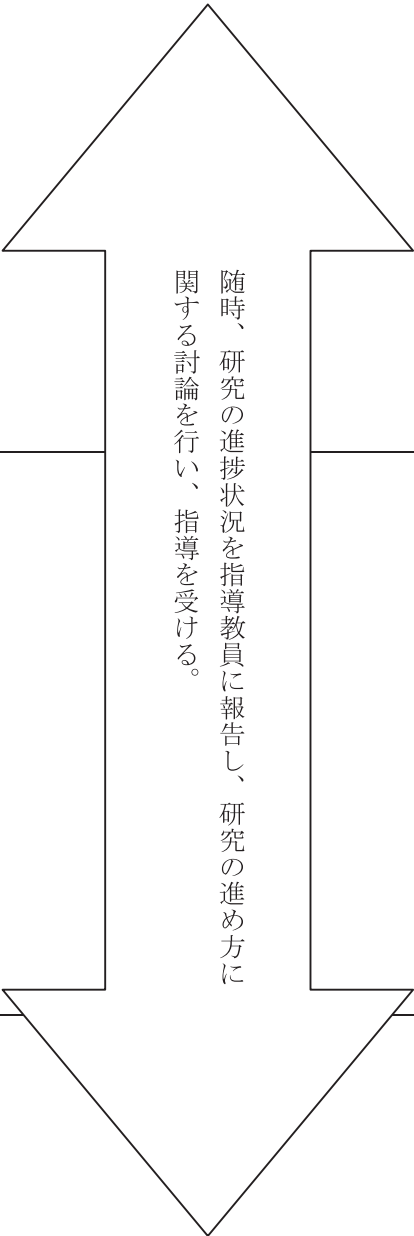
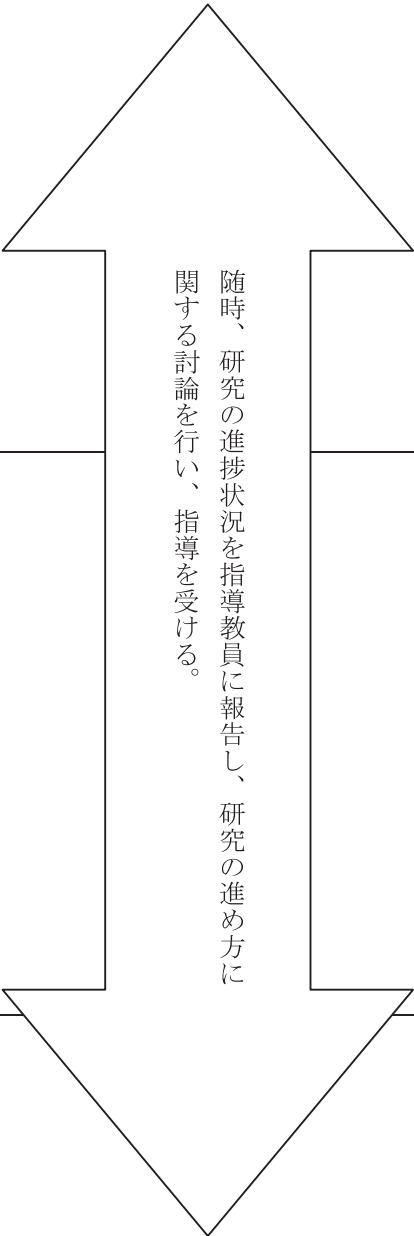
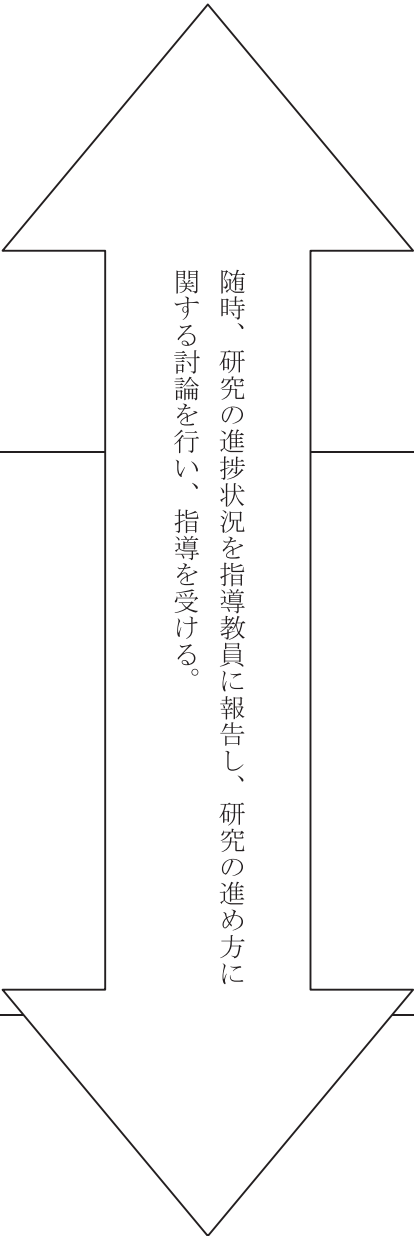
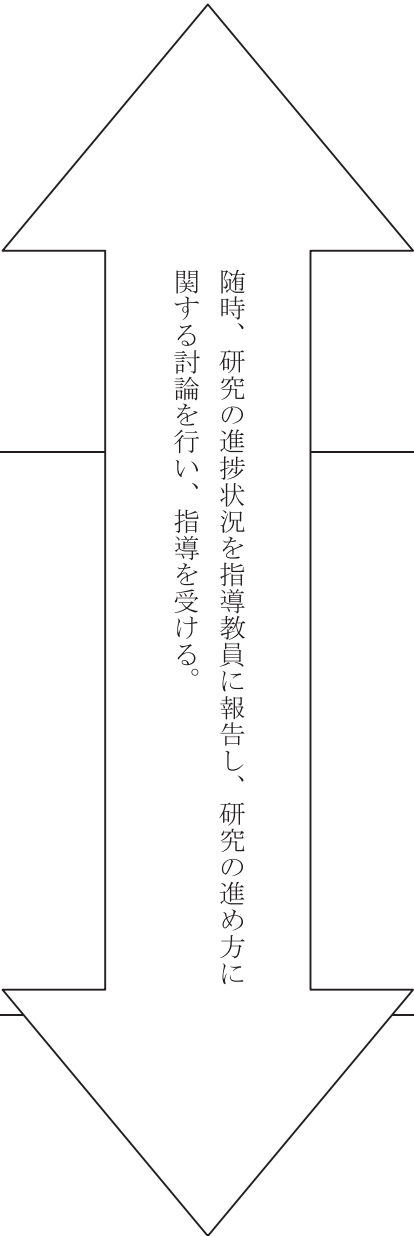
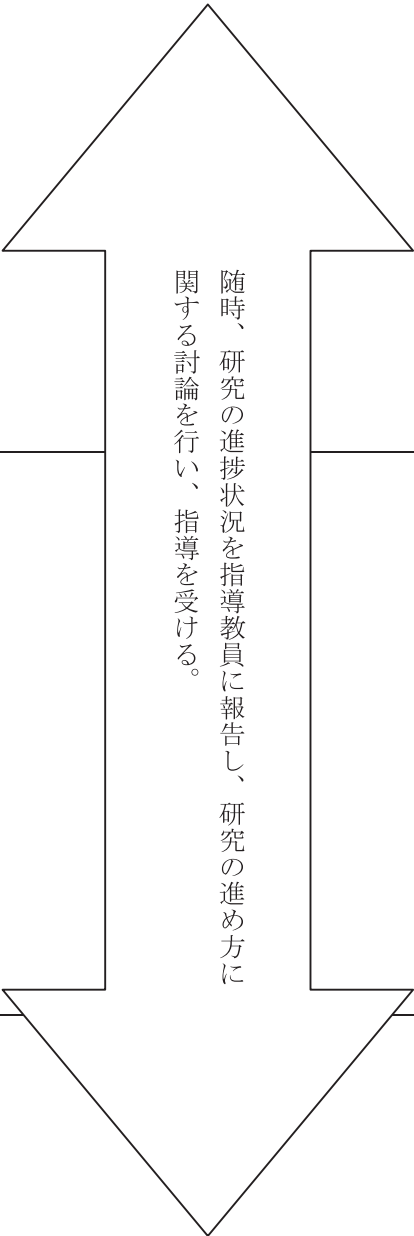
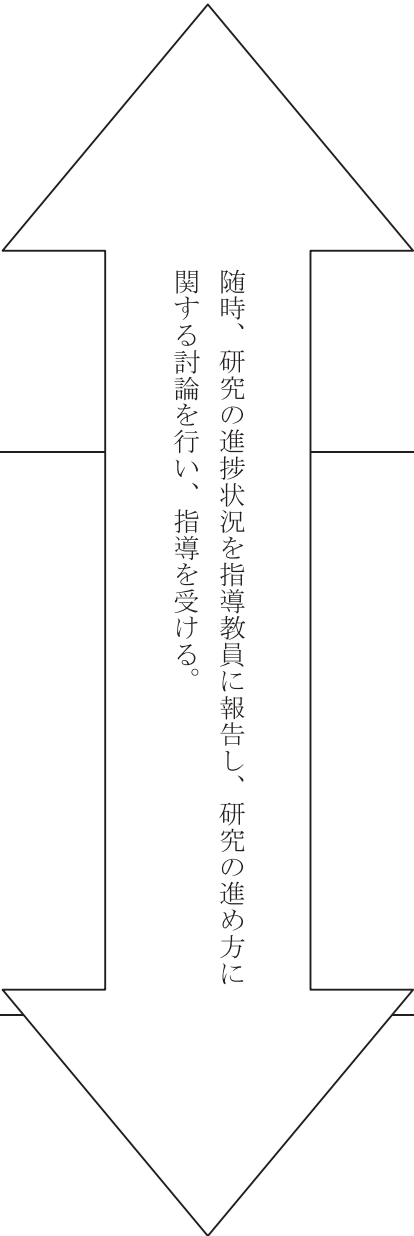
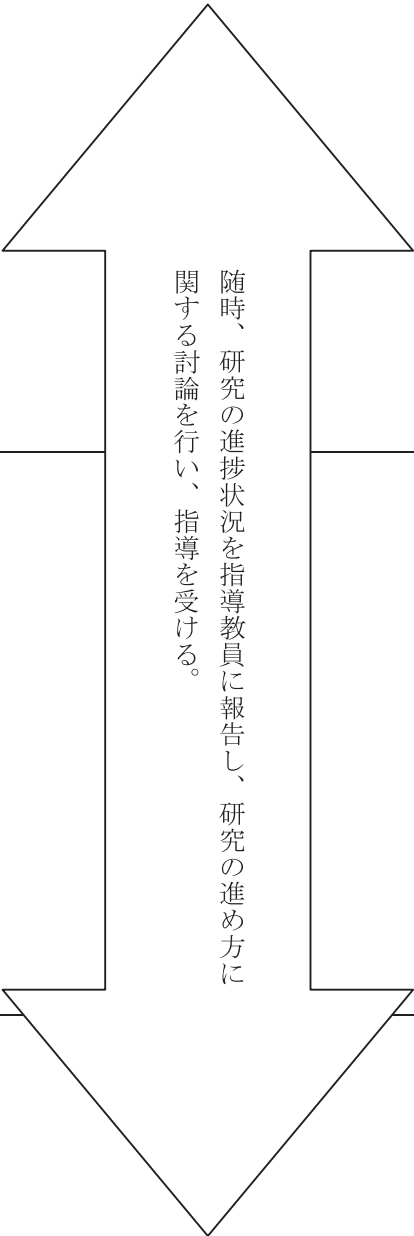
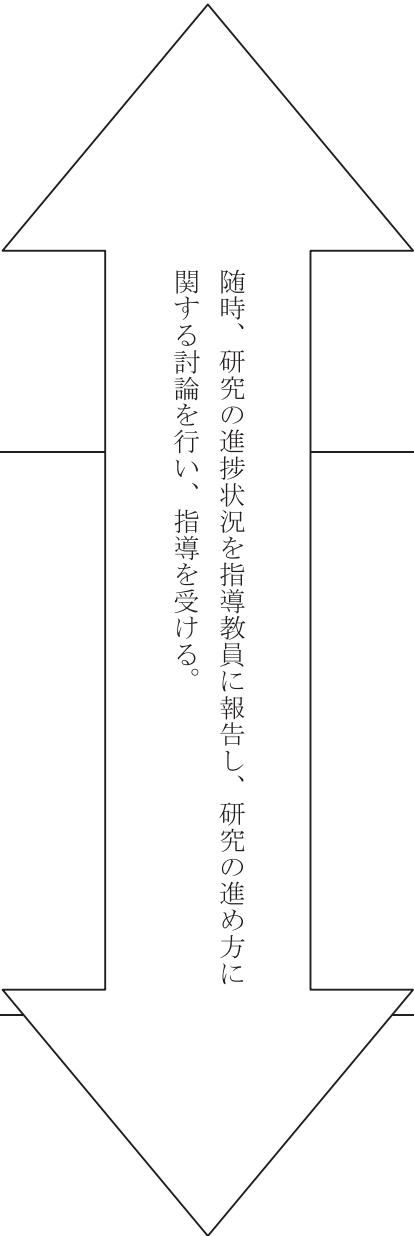
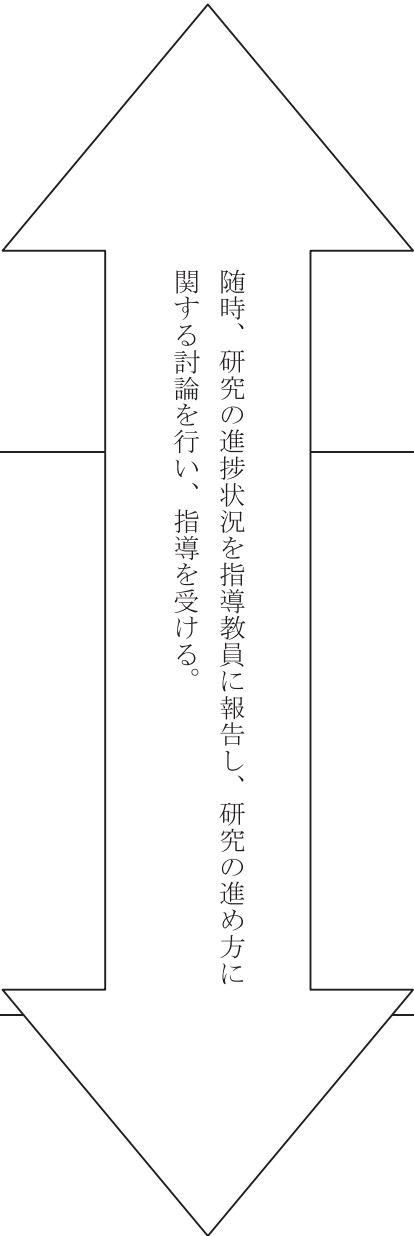
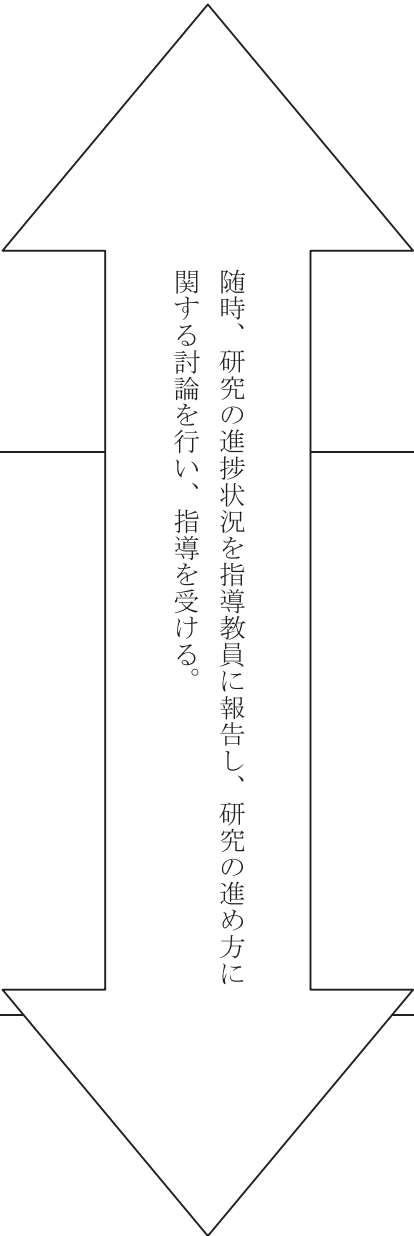
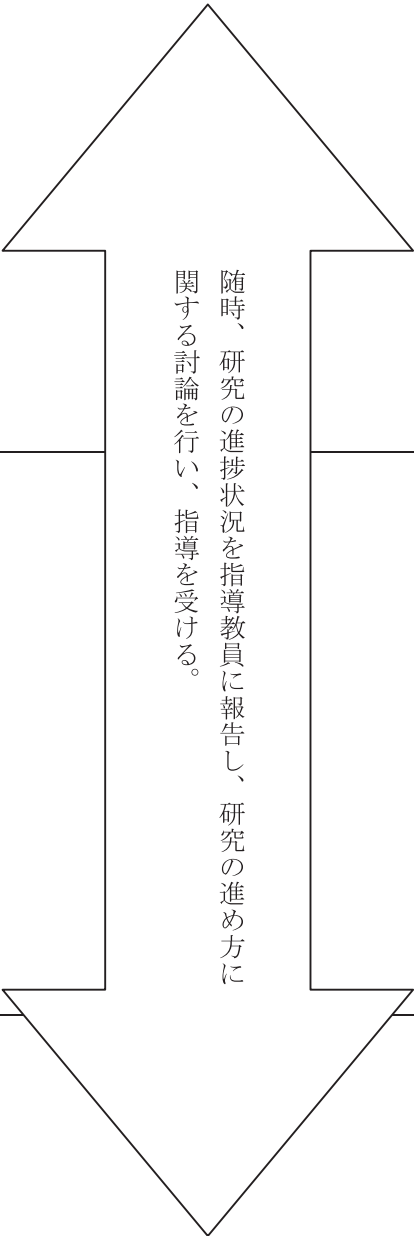
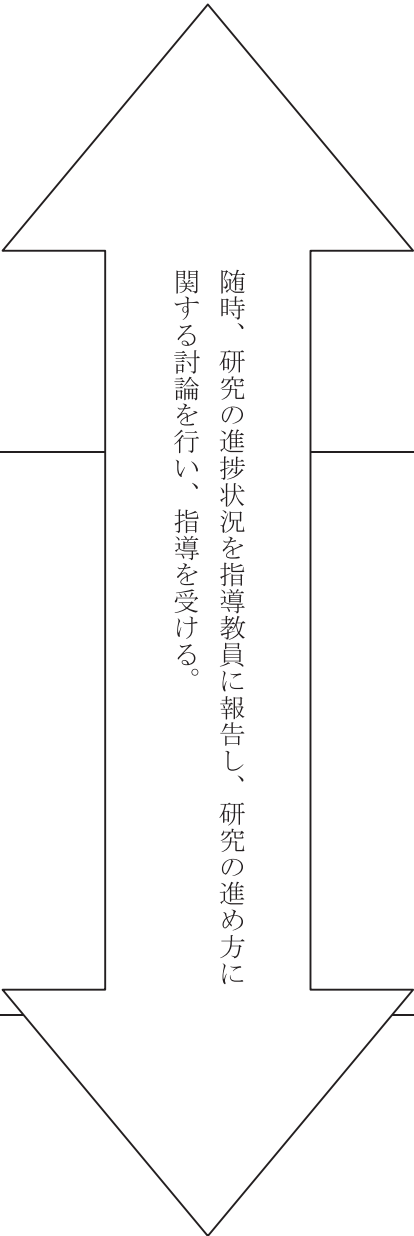
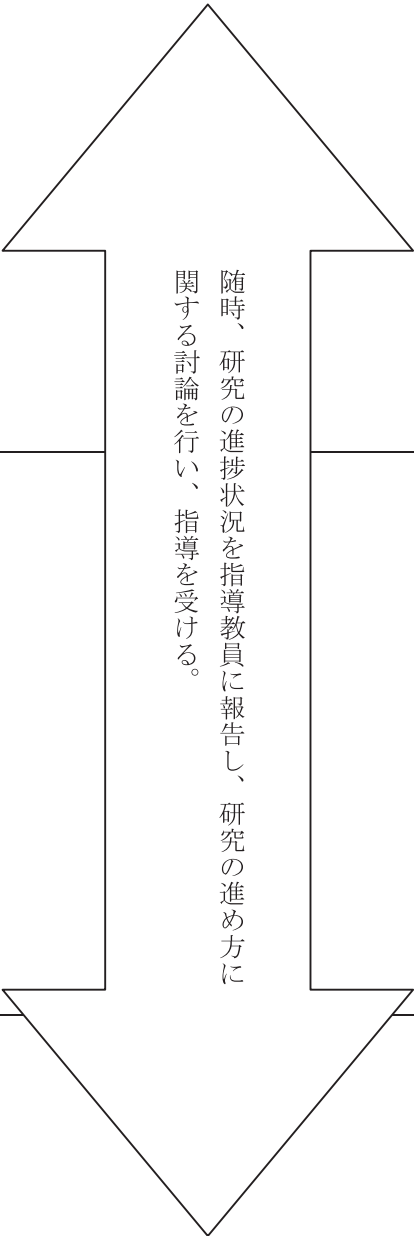
2. 博士後期課程

環境工学特別演習Ⅲ Exercise of Environmental Engineering Ⅲ		開講年次・開講期	1年・通年
		単位区分・単位数	必修・2単位
担当教員	各教員	関連する学習・教育目標	1～5
概要	博士の学位論文を作成するために必要な課題設定能力の養成、課題解決能力の向上を目的として、具体的研究テーマの設定、研究遂行プロセスについて演習・討論を行う。		
達成目標	博士論文テーマを設定し、研究計画を立て、問題を自ら解決していく能力を身につけること。学術的に的確な討論ができる能力を身につけること。		
授業計画	毎週行われるセミナーにおいて、テキスト、基本文献等の輪読、発表および質疑を行う。		
成績評価基準	報告内容に対する理解度、的確な発表や討論を行う能力により評価する。		
教科書参考文献その他	指導教員から適宜指示する。		

環境工学特別研究 Advanced Research for Doctor of Environmental Engineering		開講年次・開講期	1～3年・通年
		単位区分・単位数	必修・12単位
担当教員	各教員	関連する学習・教育目標	1～5
概要	環境工学専攻の理念・教育目標に沿った内容の研究テーマを設定し、研究を行い、博士論文としてまとめる能力と研究成果を得る。		
達成目標	<p>①研究を通して、課題を設定する能力、研究方法を設定し実施する能力ならびに問題に対応し解決する能力を向上させ、独立して研究を遂行できる能力を身につける。</p> <p>②博士論文をまとめるに足る成果を得ること。</p> <p>③研究テーマだけでなく、専攻の教育理念に沿った周辺分野にも知識と理解を持ち、境界分野の進歩にも対応できる技術者・研究者としての能力を身につける。</p>		
授業計画	研究指導計画による。		
成績評価基準	<p>下記の5項目について採点し、総合的に評価する。</p> <p>a 研究の背景（関連分野の現状、当該研究の位置づけなど）及び周辺分野に関して十分な全般的知識を持つことが認められる。</p> <p>b 方法論・研究手法、得られた結果とその解釈が適切である。</p> <p>c 内容に独創性または新規性が認められ、学術的または工学的な価値が認められる。</p> <p>d 学術研究にふさわしい発表・討論ができる。</p> <p>e 独立して研究を遂行できる能力を持つと判断される。</p>		
教科書参考文献その他	教科書、参考文献等については別途指示する。		

研究指導計画

環境・博士後期課程

学年	月	スケジュール						
D 1	4	指導教員決定						
	5	研究テーマの決定						
	6	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  </div>						
	7							
	8							
	9							
	10							
	11							
	12							
	1							
	2							
	3							
	D 2		4	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  </div>				
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
1								
2								
3								
D 3		4	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  </div>					
	5	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  </div>						
	6			<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  </div>				
	7				<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  </div>			
	8					<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  </div>		
	9						<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  </div>	
	10							<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  </div>
	11							
	12		<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  </div>					
	1	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  </div>						
	2			<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  </div>				
	3				<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  </div>			
	4					<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  </div>		
5	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  </div>							
6							<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  </div>	
7								<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  </div>
8			<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  </div>					
9		9月第1木曜日 予備検討出願						
10		予備検討委員会による審査						
11		<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  </div>						
12				12月第1木曜日 審査申請				
1	1月末までに 審査委員会による審査							
2	公聴会の開催							
3								

≪生物学専攻≫

1. 博士前期課程

生物学特別演習 I Exercise of Advanced Biotechnology I		開講年次・開講期	1年・通年
		単位区分・単位数	必修・2単位
担当教員	各教員	関連する学習・教育目標	2, 4
概要	修士論文の研究遂行のために必要となる当該分野および周辺分野の基礎的知識および応用能力を養成するために、セミナー形式で基礎的課題についての演習・発表・討論を行う。		
達成目標	修士論文テーマを含む分野および周辺分野の基礎的知識とその応用能力を身につけること。基礎的課題に関する内容を発表し、的確な質疑応答ができるようになること。		
授業計画	毎週行われるセミナーにおいて、テキスト、基本文献等の輪読、発表および質疑を行う。		
成績評価基準	基礎的課題の理解度、的確な発表や討論を行う能力により総合的に評価する。		
教科書参考文献その他	指導教員から適宜指示する。		

生物学特別演習 II Exercise of Advanced Biotechnology II		開講年次・開講期	2年・通年
		単位区分・単位数	必修・2単位
担当教員	各教員	関連する学習・教育目標	2, 4
概要	修士論文の作成に必要な研究方法を見出す能力や問題解決能力の養成を目的として、具体的研究課題（研究テーマ）に関連する研究手法や課題解決手法について演習・討論を行う。		
達成目標	修士論文テーマの研究遂行のための方法、問題が生じた場合の解決方法などを学び、実際の研究遂行に生かせるようになること。		
授業計画	毎週行われるセミナーにおいて、テキスト、基本文献等の輪読、発表及び質疑を行う。		
成績評価基準	報告内容に対する理解度、的確な発表や討論を行う能力により総合的に評価する。		
教科書参考文献その他	適宜指示する。		

生物工学特別研究 Advanced Research for Master of Biotechnology		開講年次・開講期	1～2年・通年
		単位区分・単位数	必修・8単位
担当教員	各教員	関連する学習・教育目標	1, 2, 4
概要	生物工学専攻の理念・教育目標に沿った内容の研究テーマを設定し、研究を行い、修士論文としてまとめる能力と研究成果を得ること。		
達成目標	研究の遂行を通して、研究方法を見出し実施する能力、問題に対応し解決する能力を身につける。 科学・技術論文の作成・研究発表能力を身につけ、的確な質疑応答ができるようになること。研究テーマだけでなく、専攻の教育理念に沿った周辺分野にも知識と理解をもつようになること。		
授業計画	研究指導計画による。		
成績評価基準	下記の5項目について採点し、総合的に評価する。 a 研究の背景（関連分野の現状）、研究の位置づけと目的が明確である。 b 研究手法と得られた結果についての理解が十分である。 c 結果の解釈が適切で、新しい知見が得られている。 d 研究の将来の発展性が認められる。 e 的確な発表・討論ができる。		
教科書参考文献その他	教科書、参考文献については別途指示する。		

研究指導計画

生物・博士前期課程

学年	月	スケジュール	
M 1	4	指導教員決定	
	5	研究テーマの決定、実施計画の策定	
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		修士論文中間発表会
	1		(研究の進捗状況、今後の計画など)
	2		
	3		
	M 2	4	
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12		修士論文の作成、審査会に向けた発表準備を行う。	
1			
2		修士論文提出 審査委員による審査 修士論文審査発表会	
3			

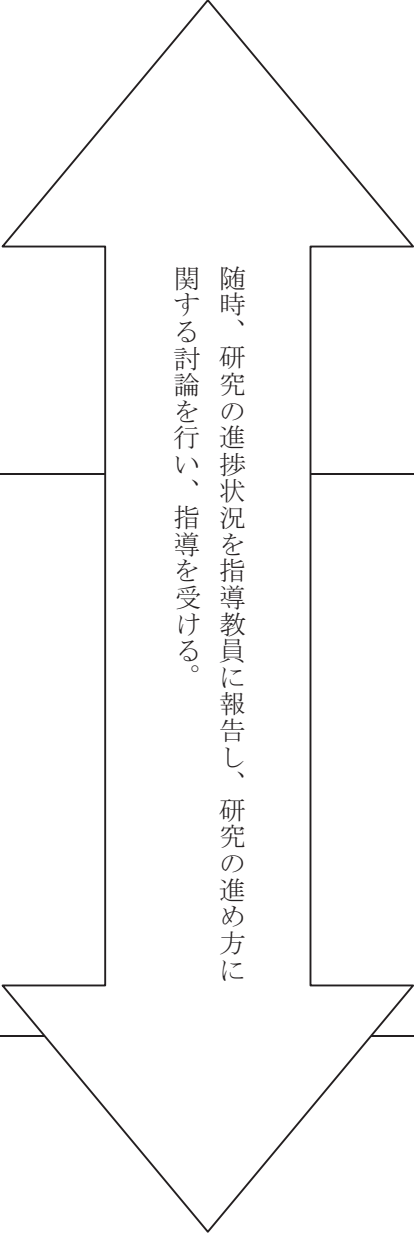
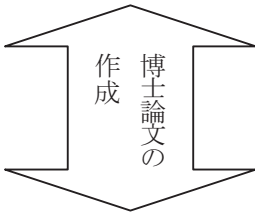
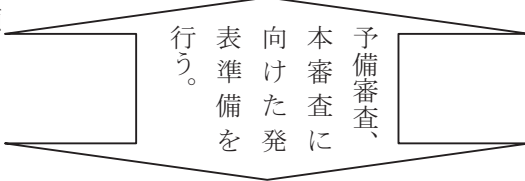
2. 博士後期課程

生物学特別演習Ⅲ Exercise of Advanced Biotechnology Ⅲ		開講年次・開講期	1年・通年
		単位区分・単位数	必修・2単位
担当教員	各教員	関連する学習・教育目標	2, 4
概要	博士の学位論文を作成するために必要な課題設定能力の養成、課題解決能力の向上を目的として、具体的研究テーマの設定、研究遂行プロセスについて演習・討論を行う。		
達成目標	博士論文テーマを設定し、研究計画を立て、問題を自ら解決していく能力を身につけること。学術的に的確な討論ができる能力を身につけること。		
授業計画	毎週行われるセミナーにおいて、テキスト、基本文献等の輪読、発表および質疑を行う。		
成績評価基準	報告内容に対する理解度、的確な発表や討論を行う能力により評価する。		
教科書参考文献その他	指導教員から適宜指示する。		

生物学特別研究 Advanced Research for Doctor of Biotechnology		開講年次・開講期	1～3年・通年
		単位区分・単位数	必修・12単位
担当教員	各教員	関連する学習・教育目標	1, 2, 4
概要	生物学専攻の理念・教育目標に沿った内容の研究テーマを設定し、研究を行い、博士論文としてまとめる能力と研究成果を得る。		
達成目標	<p>①研究を通して、課題を設定する能力、研究方法を設定し実施する能力ならびに問題に対応し解決する能力を向上させ、独立して研究を遂行できる能力を身につける。</p> <p>②博士論文をまとめるに足る成果を得ること。</p> <p>研究テーマの内容を含む分野だけでなく、周辺分野にも全般的な広い知識と関心を持ち、境界分野の進歩にも対応できる技術者・研究者としての能力を身につける。</p>		
授業計画	研究指導計画による。		
成績評価基準	<p>下記の5項目について採点し、総合的に評価する。</p> <p>a 研究の背景（当該分野の発展の歴史、他の研究者による関連研究のレビュー、当該研究の位置づけなど）及び周辺分野に関して十分な全般的知識を持つことが認められる。</p> <p>b 方法論・研究手法、得られた結果とその解釈が適切である。</p> <p>c 内容に独創性または新規性が認められ、学術的または工業的な価値が認められる。</p> <p>d 学術研究にふさわしい討論ができる。</p> <p>e 独立して研究を遂行できる能力を持つと判断される。</p>		
教科書参考文献その他	教科書、参考文献等については別途指示する。		

研究指導計画

生物・博士後期課程

学年	月	スケジュール	
D 1	4	研究テーマの決定 指導教員決定	
	5	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  </div>	
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	1		
	2		
	3		
	D 2		4
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
1		博士論文中間発表会 (研究の進捗状況、今後の計画など)	
2			
3			
D 3		4	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  </div>
	5		
	6		
	7		
	8		
	9	9月第1木曜日 予備検討出願	
	10	予備検討委員会による審査	
	11	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  </div>	
	12		12月第1木曜日 審査申請
	1	1月末までに 審査委員会による審査 公聴会の開催	
	2		
	3		

VIII 履修に関する規程等

〔富山県立大学大学院学則〕
〔富山県立大学学則(抄)〕
〔富山県立大学大学院履修規程〕

富山県立大学大学院学則

(目 的)

第1条 富山県立大学大学院（以下「本大学院」という。）は、専攻分野に関する専門的な学術の理論及び応用を教授研究することにより、深遠な学識と高度な研究能力とを兼ね備えた有為な人材を育成するとともに、学術文化の向上と社会の発展に寄与することを目的とする。

(自己評価等)

第2条 前条の目的を達成するため、本大学院における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行う。

- 2 前項の点検及び評価を行うに当たっては、同項の趣旨に則し適切な項目を設定するとともに、適当な体制を整えて行う。
- 3 自己評価に関して必要な事項は、学長が別に定める。

(研究科、専攻及び課程)

第3条 本大学院に次の研究科、専攻及び課程を置く。

研究科	専攻	課程
工学研究科	機械システム工学専攻	博士課程
	知能デザイン工学専攻	博士課程
	情報システム工学専攻	博士課程
	環境工学専攻	博士課程
	生物工学専攻	博士課程

- 2 博士課程は、前期2年の課程（以下「博士前期課程」という。）及び後期3年の課程（以下「博士後期課程」という。）に区分し、博士前期課程は、これを修士課程として取り扱うものとする。

(博士前期課程における各専攻の目的)

第4条 博士前期課程における各専攻の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

(1) 機械システム工学専攻

学部環境調和型ものづくりを継承した機械工学に関する教育研究を行い、先端的で高度な機械工学及びその周辺分野の専門知識並びにライフサイクルアセスメント工学に基づく専門領域の学識を有し、創造力を発揮できる人材を養成すること。

(2) 知能デザイン工学専攻

電子工学、機械工学及び情報工学が融合した先端技術を修得するための総合的な教育研究を行い、幅広い視野で革新的な技術開発を行うことができる優れた専門性及び学識を備えた人材を養成すること。

(3) 情報システム工学専攻

技術革新及び情報社会を支える情報通信システムに関する教育研究を行い、幅広い知識及びそれらを総合する能力を有し、創造性に富み社会の変化に柔軟に対応できる

人材を養成すること。

(4) 環境工学専攻

水循環工学、資源循環工学、環境政策学、環境デザイン工学その他の幅広い環境関連分野の教育研究を行い、環境問題の解決及び循環型社会の構築のための高度技術並びにマネジメント能力を有する人材を養成すること。

(5) 生物工学専攻

先端的なバイオテクノロジー及びその周辺分野の基礎知識を基盤とした教育研究を行い、食品、化学及び医薬品工業に関する専門的な知識及び技術を有する研究開発指向型の人材を養成すること。

(博士後期課程における各専攻の目的)

第5条 博士後期課程における各専攻の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

(1) 機械システム工学専攻

環境に配慮した安全で安心な社会の構築を目指した機械工学に関する教育研究を行い、先端的で高度な機械工学及びその周辺分野の専門知識を有し、高度な研究能力及び豊かな学識を備えた人材を養成すること。

(2) 知能デザイン工学専攻

電子工学、機械工学及び情報工学が融合した先端技術領域において独創的な教育研究を行い、現実課題の解決に適應できる高度な研究能力及び豊かな学識を備えた人材を養成すること。

(3) 情報システム工学専攻

技術革新及び情報社会を支える情報通信システムに関する教育研究を行い、問題を発見し解決する能力、自立して研究活動を行うことができる高度な研究能力及び豊かな学識を備えた人材を養成すること。

(4) 環境工学専攻

環境問題を解決し持続可能な循環型社会を構築するための技術やマネジメントに関する教育研究を行い、自ら問題を発見しその解決に対応できる高度な研究能力及び豊かな学識を備えた人材を養成すること。

(5) 生物工学専攻

生命現象を分子レベルで解析し、それを応用へ繋げる創造的かつ独創的な教育研究を行い、独自で研究テーマを展開し、遂行することができる高度な研究能力及び豊かな学識を備えた人材を養成すること。

(学生定員)

第6条 学生の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

専攻	課程	入学定員	収容定員
機械システム工学専攻	博士前期課程	17名	34名
	博士後期課程	4名	12名
知能デザイン工学専攻	博士前期課程	17名	34名
	博士後期課程	4名	12名

情報システム工学専攻	博士前期課程	17名	34名
	博士後期課程	4名	12名
環境工学専攻	博士前期課程	12名	24名
	博士後期課程	2名	6名
生物工学専攻	博士前期課程	15名	30名
	博士後期課程	4名	12名

(修業年限及び在学期間)

第7条 博士前期課程の標準修業年限は、2年とし、在学期間は、3年を超えることができない。ただし、特別の場合については、学長が別に定める。

2 博士後期課程の標準修業年限は、3年とし、在学期間は、5年を超えることができない。ただし、特別の場合については、学長が別に定める。

(教職員組織)

第8条 本大学院の教職員は、富山県立大学（以下「本学」という。）の専任の教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、技術職員その他必要な職員をもって充てる。

2 工学研究科（以下「研究科」という。）に工学研究科長（以下「研究科長」という。）を置く。

3 研究科長は、研究科に関する校務をつかさどる。

(工学研究科委員会)

第9条 研究科に、富山県立大学大学院工学研究科委員会（以下「研究科委員会」という。）を置く。

2 研究科委員会は、学長、研究科長及び研究科を担当する本学の専任の教授をもって組織するものとする。

3 富山県立大学学則（以下「本学学則」という。）第8条第3項の規定により副学長を置く場合には、当該副学長を研究科委員会の組織に加える。

4 前2項に規定する者のほか、必要に応じ、研究科を担当する本学の専任の准教授及び講師を研究科委員会の組織に加えることができる。

5 研究科委員会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学及び課程の修了に関すること。

(2) 学位の授与に関すること。

(3) 前二号で掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、研究科委員会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの。

6 研究科委員会は前項に規定するもののほか、学長及び研究科長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

7 研究科委員会に関し必要な事項は、学長が別に定める。

(入学資格)

第10条 博士前期課程に入学を志願できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第52条に定める大学を卒業した者
- (2) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 学校教育法第67条第2項の規定により他の大学院に入学した者であつて、研究科委員会において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
- (8) 学校教育法第68条の2第4項の規定により学士の学位を授与された者
- (9) 大学に3年以上在学し、学長が研究科委員会の意見を聴き、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
- (10) 学長が研究科委員会の意見を聴き、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

2 博士後期課程に入学を志願できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 修士の学位を有する者
- (2) 外国において、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (3) 文部科学大臣の指定した者
- (4) 学長が研究科委員会の意見を聴き、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

(他の大学の大学院等における研究指導)

第11条 学長は、教育研究上有益と認めるときは、他の大学の大学院又は研究所等とあらかじめ協議のうえ、本大学院の学生が他の大学の大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けることを認めることができる。ただし、博士前期課程の学生については認める場合には、当該研究指導を受ける期間は、1年を超えないものとする。

(特別研究学生)

第12条 他の大学院の学生で、本学の大学院において研究指導を受けることを志願する者があるときは、当該大学院との協議に基づき特別研究学生として学長が入学を許可することができる。

ただし、博士前期課程の学生については入学を許可する場合には、当該研究指導を受ける期間は、1年を超えないものとする。

- 2 特別研究学生の授業料、入学料及び入学考査料の額は、理事長が別に定める。
- 3 その他特別研究学生に関し必要な事項は、学長が別に定める。

(授業科目)

第13条 授業科目及び単位数は、別表のとおりとし、各授業科目の授業時間数、履修方法等は、学長が別に定める。

(試 験)

第14条 試験は年2回とし、学期の終わりに行う。ただし、各授業科目の担当教員が必要と認めるときは、随時行うことができる。

- 2 病気その他やむを得ない理由により試験を受けることができない者は、あらかじめ、その旨を学長に届け出なければならない。
- 3 前項に掲げる者には、追試験を行うことができる。
- 4 試験の成績は、優、良、可、不可とし、不可は、不合格とする。

(他の大学の大学院における授業科目の履修等)

第15条 教育上有益と認めるときは、他の大学の大学院との協議に基づき、学生に当該大学の大学院の授業科目を履修させることができる。

- 2 前項の規定により修得した単位については、別に学長が定める範囲内で修了の要件となる単位として認めることができる。
- 3 前2項の規定は、第18条第1項の規定により留学する場合に準用する。

(入学前既修得単位の認定)

第16条 学長は、学生が本大学院に入学する前に本大学院の博士前期課程において履修した授業科目について修得した単位（第23条において準用する本学学則第60条第2項の規定により科目等履修生として修得した単位を含む。）を、博士前期課程に入学した後の博士前期課程における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 前項の規定により修得したものとみなす単位については、10単位を超えない範囲で博士前期課程修了の要件となる単位として認めることができる。

(工学部学生による授業科目の受講)

第17条 本学学則第39条第1項の規定により本学工学部生が受講できる博士前期課程の授業科目は、研究科長が指定する。

- 2 前項の規定により指定した授業科目のうち本学工学部生が修得した単位は、博士前期課程に入学した後、4単位を超えない範囲で博士前期課程修了の要件となる単位として認めることができる。

(留 学)

第18条 外国の大学の大学院又はこれに相当する教育機関で学修することを志願する者は、学長の許可を得て留学することができる。

- 2 前項の許可を得て留学した期間は、第7条に定める修業年限及び在学期間に含めることができる。

(博士前期課程修了の要件)

第19条 博士前期課程を修了するためには、2年以上在学して当該期間中に32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、学長が研究科委員会の意見を聴き、優れた業績を上げた者と認めた場合には、本大学院に1年以上在学すれば足りるものとする。

- 2 前項の審査及び最終試験は、研究科委員会において審査委員会を設けて行い、その可否は審査委員会の報告に基づいて学長が研究科委員会の意見を聴き決定する。

(博士後期課程修了の要件)

第20条 博士後期課程を修了するためには、3年以上在学して当該期間中に14単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、研究科委員会の意見を聴き、優れた研究業績を上げた者と認めた場合には、大学院に3年(博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては2年、前条第1項ただし書の規定により修了した者にあつては当該在学期間を含む。)以上在学すれば足りるものとする。

- 2 前項の規定にかかわらず、第10条第2項第2号から第4号までに該当する者が、博士後期課程を修了するためには、3年以上在学し、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、学長が研究科委員会の意見を聴き、優れた研究業績を上げた者と認めた場合には、本大学院に1年以上在学すれば足りるものとする。
- 3 博士論文の審査及び最終試験は、研究科委員会において審査委員会を設けて行い、その可否は審査委員会の報告に基づいて学長が研究科委員会の意見を聴き決定する。

(学位の授与)

第21条 学長は、博士前期課程を修了した者には、学位記を交付し、修士(工学)の学位を授与する。

- 2 学長は、博士後期課程を修了した者には、学位記を交付し、博士(工学)の学位を授与する。
- 3 学位の授与に関し必要な事項は、学長が別に定める。

(学位論文審査料)

第22条 学位論文審査料は、博士の学位申請書を提出するときに納付しなければならない。

(富山県立大学学則の準用)

第23条 富山県立大学学則第2章(第17条に限る。)、第3章、第4章(第22条及び第26条第2号を除く。)、第5章(第31条から第34条までに限る。)、第6章(第43条を除く。)、

第8章、第10章、第11章及び第12章の規定は、本大学院に準用する。この場合において、次の表の左欄に掲げる規定中同表の中欄に掲げる字句は、それぞれ同表の右欄の字句に読み替えるものとする。

規 定	読み替えられる字句	読み替える字句
第17条、第26条、第28条、第42条第1項、第59条第1項、第60第1項、第61条、第62条第1項、第64条第1項、第67条第1項及び第68条第1項	本学	本大学院
第26条第1号	大学	大学院
第27条、第31条第3項並びに第42条第1項及び第2項	学科	専攻
第27条、第28条	教授会	研究科委員会
第28条	他の大学又は短期大学（以下「他大学等」という。）	他の大学の大学院
第31条第1項及び第3項	工学部長	研究科長
第40条第5項	第6条第2項	富山県立大学大学院学則第7条第1項又は第2項
第41条及び第61条	他大学等	他の大学の大学院
第42条第1項	工学部	研究科
第46条第1号	第6条第2項に規定する在学年限及び第47条	富山県立大学大学院学則第7条第1項又は第2項
第51条第1項	授業料、入学料、入学検査料、特別聴講料、研修料及び県民開放授業受講料（以下「授業料等」という。）	授業料、入学料、入学検査料、特別聴講料、研修料、県民開放授業受講料及び学位論文審査料（以下「授業料等」という。）
第59条第2項	大学を卒業した者	大学院を修了した者
第58条の2第2項	高等学校若しくは中等教育学校	大学

（委 任）

第24条 この学則（前条において準用する本学学則第8章の規定を除く。）の施行に関し必要な事項は、学長が定める。

附 則（略）

富山県立大学学則（抄）

第3章 学年、学期及び休業日

（学 年）

第18条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

（学 期）

第19条 学年を分けて次の2期とする。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

第5章 授業科目、履修方法及び課程修了認定

（履修科目の申請）

第31条 学生は、毎学期始めの指定された期間に、当該学期において履修する授業科目を工学部長に申請して承認を受けなければならない。

- 2 単位を修得した授業科目は、再び履修することができない。
- 3 学生は、工学部長の承認を得て他学科の授業科目を履修することができる。

（単位の計算方法）

第33条 1年間の授業日数は、定期試験等の日数を含め、年35週を原則として行う。

- 2 授業科目に対する単位の計算方法は、次のとおりとする。
 - (1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
 - (2) 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。
 - (3) 講義及び演習については、30時間の授業をもって1.5単位とする。
 - (4) 実験、実習又は実技については、45時間の授業をもって1単位とする。

（単位の授与）

第34条 所定の授業科目を履修した者の当該科目修了の認定は、原則として試験によるものとし、その試験に合格した者には、単位を与えるものとする。

（試 験）

第35条 試験は年2回とし、学期の終わりに行う。ただし、各授業科目の担当教員が必要と認めたときは、随時行うことができる。

- 2 病気その他やむを得ない理由により試験を受けることができない者は、あらかじめ、その旨を学長に届け出なければならない。
- 3 前項に掲げる者には、追試験を行うことができる。
- 4 試験の成績は、S、A、B、C、不可とし、不可は、不合格とする。

富山県立大学大学院履修規程

(趣 旨)

第1条 この規程は、富山県立大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第10条の規定に基づき、授業科目の履修方法等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(授業科目及び単位数等)

第2条 授業科目の必修又は選択の区分等については、別表のとおりとする。

(指導教員)

第3条 学生について、指導教員を定めるものとする。

(履修申請)

第4条 履修申請については、富山県立大学工学部履修規程（以下「工学部履修規程」という。）第3条第1項から第4項までの規定を準用する。

(修士論文及び博士論文の提出)

第5条 博士前期課程において、所定の授業科目を32単位以上修得した者又は修得見込みの者は、修士論文を提出することができる。

2 博士後期課程において、所定の授業科目を14単位以上修得した者又は修得見込みの者は、博士論文を提出することができる。

(他の専攻の授業科目の履修)

第6条 学生は、他の専攻の必修科目以外の授業科目を履修することができる。ただし、機械システム工学専攻の必修科目のうち、専門基礎の部門に係る授業科目については、他の専攻の学生が履修することができる。

2 前項の規定により履修した授業科目の単位については、博士前期課程における機械システム工学専攻にあっては4単位、知能デザイン工学専攻、情報システム工学専攻、環境工学専攻及び生物工学専攻にあっては6単位を超えない範囲内で、大学院学則第13条第1項の単位に算入することができる。

3 前項の規定にかかわらず、富山県立大学研究生規定第9条の2第3項の規定により富山県立大学論文準修士の称号を授与された者（以下「論文準修士称号保有者」という。）が第1項の規定により履修した授業科目の単位については、大学院学則別表に掲げる博士前期課程におけるMOTの部門に係る授業科目と合わせて機械システム工学専攻にあっては6単位、知能デザイン工学専攻、情報システム工学専攻、環境工学専攻及び生物工学専攻にあっては8単位を超えない範囲内で、大学院学則第13条第1項の単位に算入することができる。

(他の大学の大学院における授業科目の履修)

第7条 学生が、他の大学の大学院との協議に基づき、当該大学の大学院において履修した授業科目については、博士前期課程においては工学研究科委員会の議を経て、前条第2項に定める単位数と合わせて機械システム工学専攻にあっては4単位、知能デザイン工学専攻、情報システム工学専攻、環境工学専攻及び生物工学専攻にあっては10単位を超えない範囲内で、大学院学則第13条第1項の単位に算入することができる。

(入学前既修得単位の認定)

第7条の2 大学院学則第16条の第1項の規定により単位の認定を受けようとする者は、入学後、指定された期限内に所定の手続により、工学研究科長（以下「研究科長」という。）に願い出なければならない。

2 大学院学則第16条の第1項の規定により修得したものとみなすことができる単位の取扱いについては、工学研究科委員会の定めるところによる。

(授業科目修了の認定、試験に関する不正行為、単位認定の対象授業科目、再履修及び追試験)

第8条 授業科目修了の認定、試験に関する不正行為、単位認定の対象授業科目、再履修及び追試験については、工学部履修規程第7条から第9条まで、第10条前段及び第11条の規定をそれぞれ準用する。

(成績評価)

第9条 授業科目の成績評価は、優、良、可及び不可をもって表し、優、良及び可を合格とし、不可を不合格とする。ただし、試験を行わない授業科目の評価については、合格又は不合格をもって表すことができる。

2 修士論文及び博士論文の審査及び最終試験の成績評価は、合格又は不合格をもって表すものとする。

(工学部在学時修得単位の認定)

第10条 大学院学則第17条の第2項の規定により単位の認定を受けようとする者は、所定の手続きにより、研究科長に願い出なければならない。

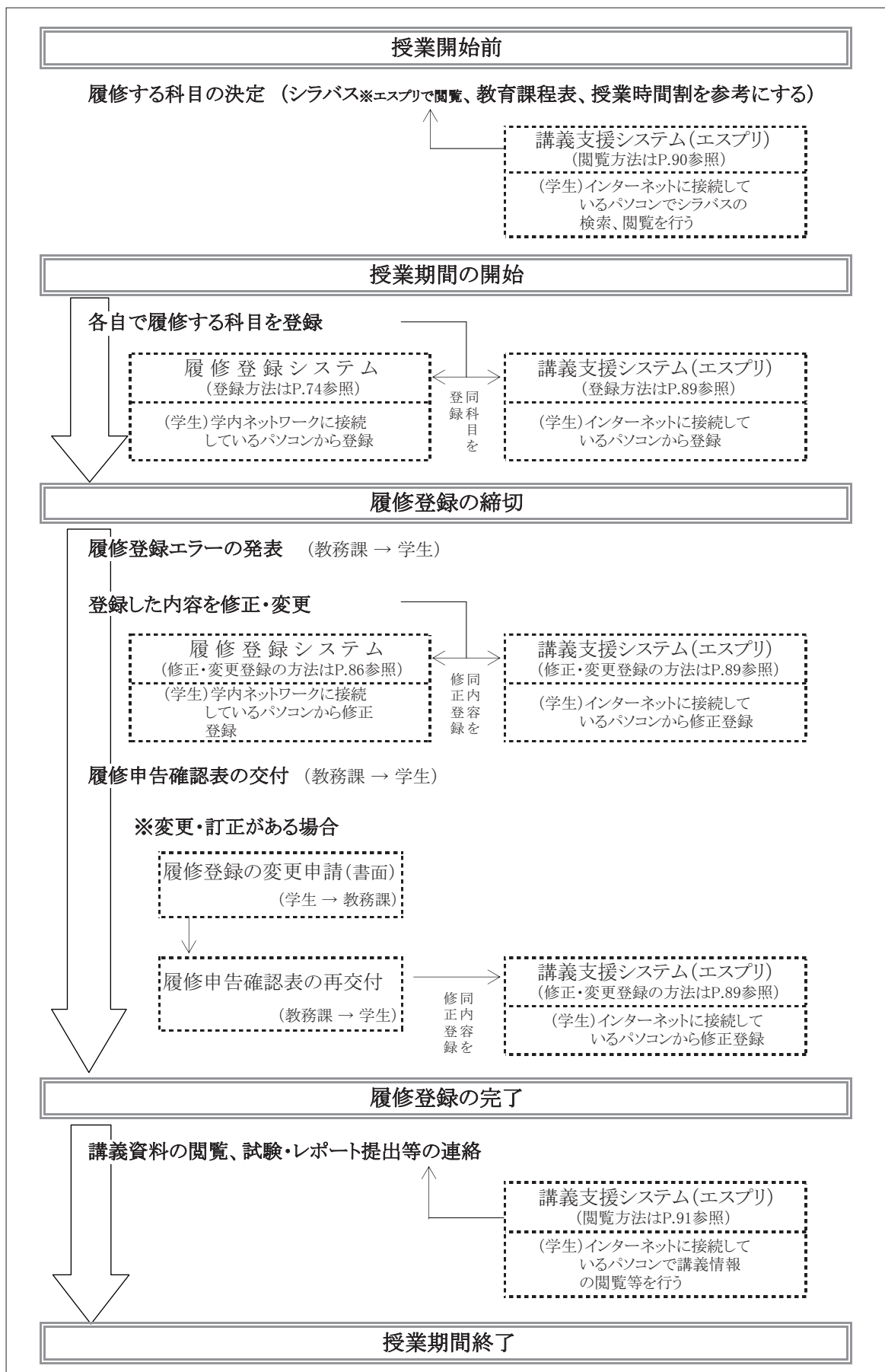
2 大学院学則第17条の第2項の規定により認めることができる単位の取扱いについては、工学研究科委員会の定めるところによる。

附 則 (略)

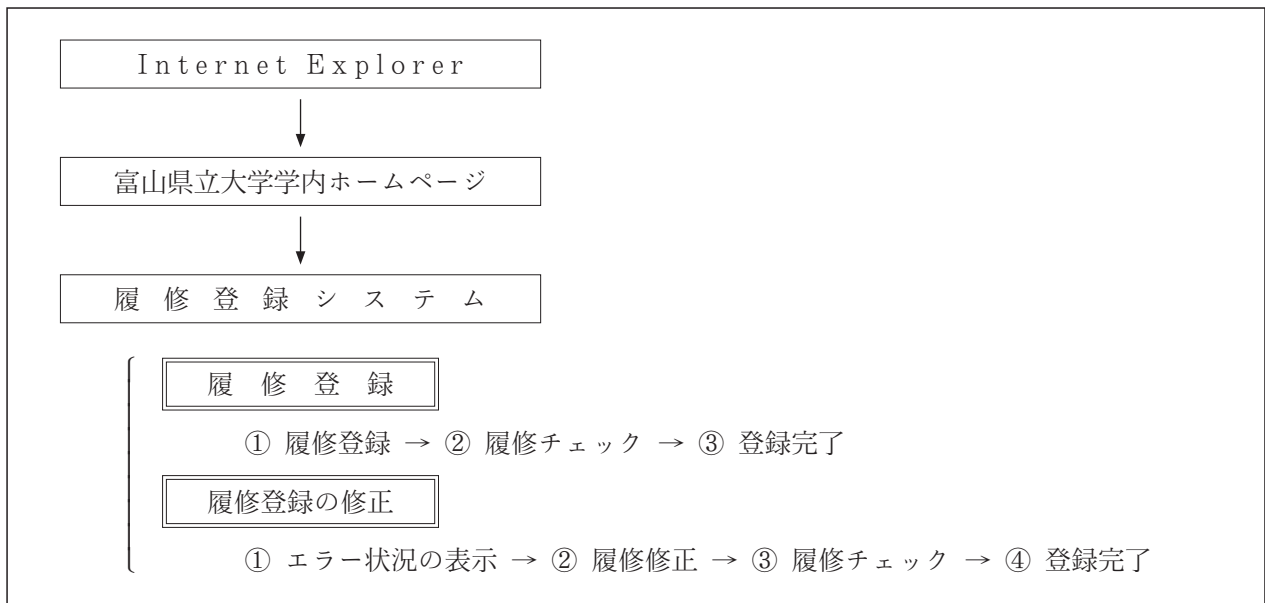
IX 履修登録マニュアル

このマニュアルを参照のうえ、ワークステーション室または計算機センターの端末から入力してください。

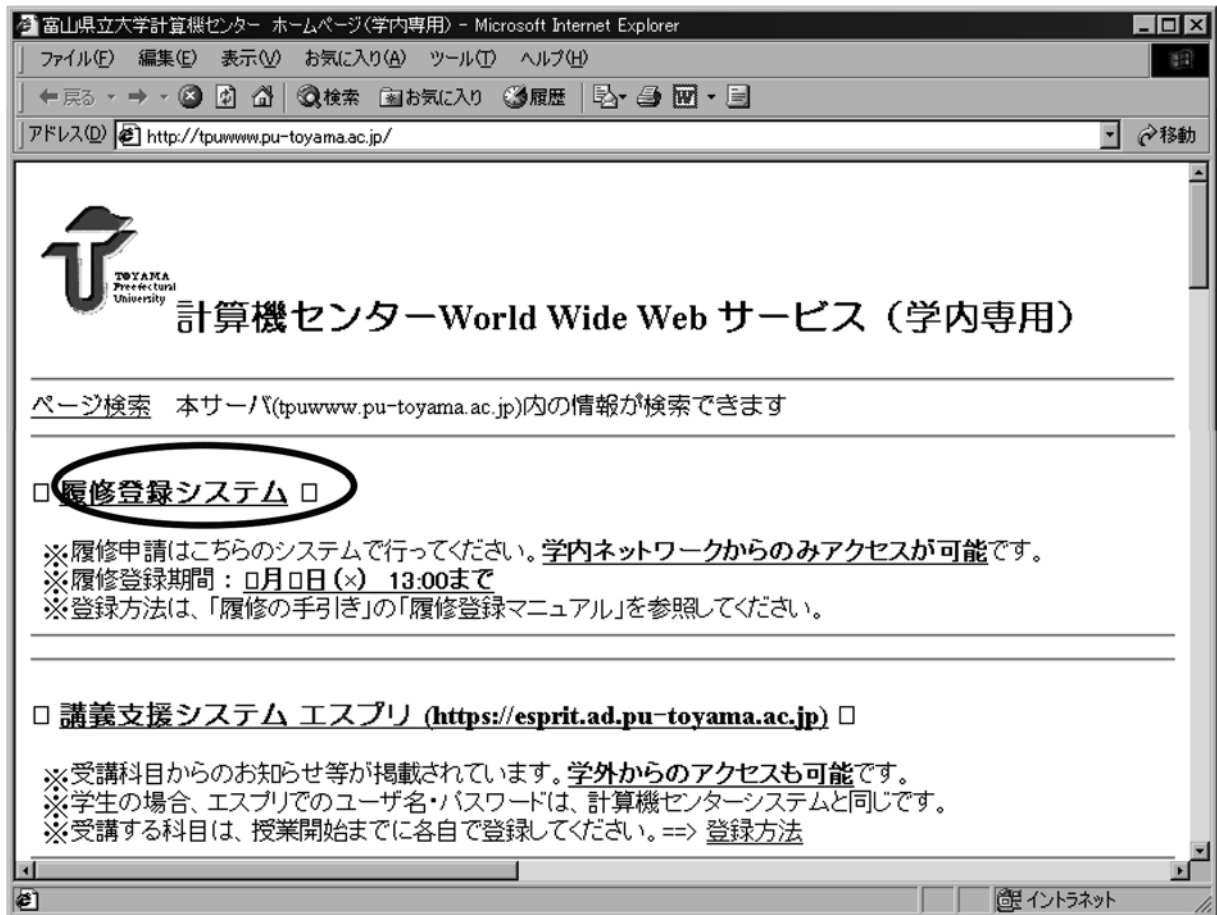
※ 授業科目の登録手続の流れ



※ 履修登録システム



1 富山県立大学学内ホームページ



※ この表示での画面は、履修登録期間（4月上旬、10月上旬）にのみ表示されます。

◇ 『履修登録システム』を選択してください。

◆ OSはWindowsを選択してください。Linuxではアクセスできません。

2 履修登録システム（ログイン）

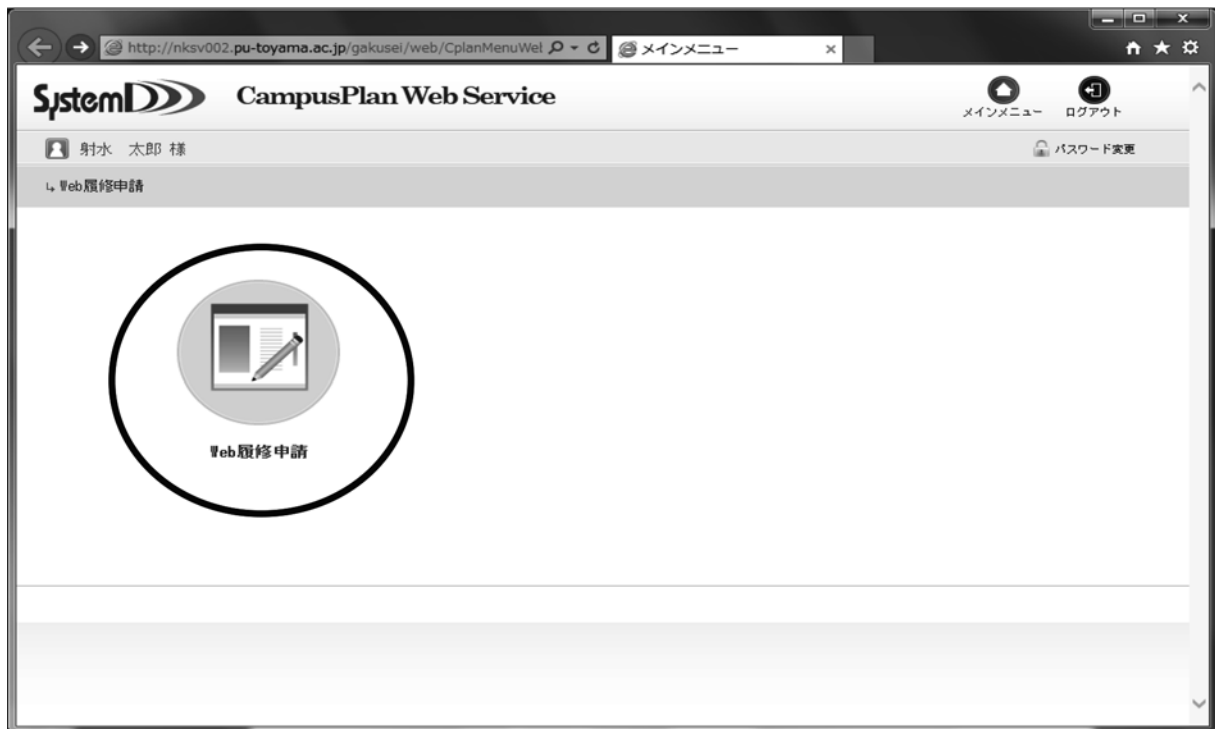


The screenshot shows a web browser window with the URL <http://nksv002.pu-toyama.ac.jp/gakusei/web/CplanMenuWeb/UI/LoginForm.aspx>. The page header includes the logo 'SystemD' and the text 'CampusPlan Web Service'. The main content area has a light gray background with a photo of three female students at the bottom. The text '学生用WEBサービスログイン' is centered. On the right side, there is a white login form with the following elements:

- ユーザーID: [input field]
- パスワード: [input field]
- ログイン: [button]

- ◇ 「学籍番号（7桁）」「パスワード（8桁）」を入力し、『ログイン』ボタンを押してください。
- ◆パスワード：初期パスワードは生年月日（西暦）で設定されています。
（例：1996年4月1日の場合、『19960401』と入力。）
- ◆ 計算機センターから発行されるID及びパスワードと混同しないように注意してください。

3-1 履修登録処理



◇ 『Web履修申請』を選択してください。

◆ ここからWeb履修登録処理となり、以下の画面が表示されます。



◇ 表示されたメニューの中から『履修申請 (時間割)』を選択してください。

3 - 2 履修登録処理（通常講義）

The screenshot shows the '履修申請 (時間割)' page in the CampusPlan Web Service. The page is titled '履修申請 (時間割) 【前期】'. It features a navigation bar with '履修時間割', '集中講義入力', and '資格入力' buttons. Below the navigation bar, there are two tables for '前期' and '後期' (Next Semester). Each table has columns for '月曜日' (Monday), '火曜日' (Tuesday), '水曜日' (Wednesday), '木曜日' (Thursday), '金曜日' (Friday), and '土曜日' (Saturday). The rows represent time slots from '1時限' (1st period) to '6時限' (6th period). In the '前期' table, the '+' button in the 3rd time slot of the Monday column is circled in red. The page also includes a user profile for '射水 太郎 様' and a 'パスワード変更' link.

- ◇ 『履修申請（時間割）』をクリックすると、履修時間割（時間割形式での通常講義）が表示されます。
- ◇ 曜日時限ごとに登録枠があり、枠左上の『+』ボタンを押せば「講義検索」画面が表示されます。

http://nksv002.pu-toyama.ac.jp/?P1=2015&P2=1&P3=03&P4=1 - 講義検索 - Internet Explorer

SystemD CampusPlan Web Service ヘルプ

射水 太郎 様 ウィンドウを閉じる

○ 講義検索

前期 月曜 3限

該当件数 4件 (1-4件目を表示)

	講義コード	講義名称	講義副題	関連学科科目	講義開講時期	校地	講義区分	代表教員	科目分類	必修別	単位数	隔週
<input type="button" value="選択"/>	111511	経済学 I 前期		経済学 I	前期			平野 高孝	総合科目 (社会・環境)	選択	2	
<input type="button" value="選択"/>	1011512	社会学 I 前期		社会学 I	前期			濱 貴子	総合科目 (社会・環境)	選択	2	
<input type="button" value="選択"/>	1011513	芸術学 I 前期		芸術学 I	前期			原口志津子	総合科目 (言語・文化)	選択	2	
<input type="button" value="選択"/>	1011514	心理学 I 前期		心理学 I	前期			井戸 啓介	総合科目 (精神・身体)	選択	2	

UP ↓ ウィンドウを閉じる

- ◇ 選択した曜日時限に開講されている講義のうち、履修可能な講義が一覧表示されます。
- ◇ 履修したい講義を確認し、『選択』ボタンをクリックすれば、選択した講義が時間割表の曜日時限枠内に表示されます。

SystemD CampusPlan Web Service

射水 太郎 様

Web履修申請

履修申請 (時間割) 【前期】

履修時間割 集中講義入力 資格入力

前期 【+】 講義の追加、【-】 講義の削除 成績状況参照

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1時限	+	+	+	+	+	+
2時限	+	+	+	+	+	+
3時限	- 経済学 I 前期 10115 1年 夏季 総合科目 (社会・環境) 選択 2単位 前期	+	+	+	+	+
4時限	+	+	+	+	+	+
5時限	+	+	+	+	+	+
6時限	+	+	+	+	+	+

◇ 履修した講義を取り消す場合は、曜日時限枠の左上に表示されている『-』ボタンをクリックしてください。

※ 「前期」の履修登録時には画面下部に「後期」の登録画面も表示されますが、履修登録は行えません。後期開講科目の履修登録は後期履修登録時に行ってください。

3 - 3 履修登録処理（集中講義等）



- ◇ 集中講義や卒業研究等については、「集中講義入力」画面から履修登録を行います。
- ◇ 『講義追加』ボタンをクリックすれば「集中講義検索」画面が表示されます。

http://nksv002.pu-toyama.ac.jp/?P1=2014 - 集中講義検索 - Internet Explorer

SystemD CampusPlan Web Service ヘルプ

射水 太郎 様 ウインドウを閉じる

集中講義検索

検索条件設定 (特に明記のない項目は前方一致検索)

講義コード	<input type="text"/>	講義区分	選択なし <input type="button" value="v"/>
講義名称	<input type="text"/>	代表教員	<input type="text"/>
講義副題	<input type="text"/>	科目分類・科目分野等 (部分一致検索)	<input type="text"/>
学則科目名称	<input type="text"/>	必選別	選択なし <input type="button" value="v"/>
講義開講時期	選択なし <input type="button" value="v"/> ~ 選択なし <input type="button" value="v"/>	単位数	<input type="text"/> ~ <input type="text"/>
校地	選択なし <input type="button" value="v"/>		

UP ウインドウを閉じる

- ◇ 履修したい講義の条件（講義名称や開講時期等）を入力し、『以上の条件で検索』ボタンをクリックすれば、画面下部に指定した条件に全て一致する講義のうち履修可能な講義が一覧表示されます。

http://nksv002.pu-toyama.ac.jp/?P1=2015 - 集中講義検索 - Internet Explorer

以上の条件で検索

該当件数 3件 (1-3件目を表示)

	講義コード	講義名称	講義副題	関連学則科目	講義開講時期	校地	講義区分	代表教員	科目分類	必選別	単位数
選択	1011911	インターンシップA		インターンシップA (機械)	前期			機械システム共通	キャリア形成科目	選択	2
選択	1011912	インターンシップB		インターンシップB (機械)	前期			機械システム共通	キャリア形成科目	選択	1
選択	1011913	卒業研究		卒業研究	通年			機械システム共通	専門科目	必修	8

UP

✕ ウィンドウを閉じる

◇ 履修したい講義を確認し、『選択』ボタンをクリックすれば選択した集中講義が入力画面の一覧に表示されます。

※ 単位互換制度による他大学の授業科目の履修については、履修登録システムでの申請はできません。事務局（教務課）で申請手続きを行ってください。

3-4 履修登録処理（登録確認）

- ◆ 時間割形式での通常講義の履修申請（3-2）、集中講義等の履修申請（3-3）の操作を行った後、登録内容を確定する必要があります。

※この操作を行わないと履修登録が完了しませんので必ず行ってください。※

The screenshot shows a web browser window with the URL <http://nksv002.pu-toyama.ac.jp/Gakusei/web/Rishu/WebRisu/>. The page title is "履修申請（時間割）".

4時限	材料科学工学 1011711 川越 誠 専門科目 F108 選択 2単位 前期	+	+	+	+	+
5時限	+	+	+	+	+	+
6時限	+	+	+	+	+	+

後期 講義の追加、 講義の削除 成績状況参照

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1時限	+	+	+	+	+	+
2時限	+	+	+	+	+	+
3時限	+	+	+	+	+	+
4時限	+	+	+	+	+	+
5時限	+	+	+	+	+	+
6時限	+	+	+	+	+	+

登録に進む

- ◇ 「履修時間割」画面もしくは「集中講義入力」画面の右下に表示されている『登録に進む』ボタンをクリックしてください。
- ◇ 確認のダイアログが表示されます。登録処理を実行してよければ『OK』ボタンをクリックしてください。

SystemD CampusPlan Web Service

射水 太郎 様

Web履修申請

履修申請確認 (時間割)

登録

前期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1時限	英語基礎 1 1011112 木村 裕三 外国語科目 WS2 必修 1単位 前期		情報環境演習 1 1013111 日比野 敬 専門科目 ワークステーション室 必修 1単位 前期	英語基礎 2 1014112 高橋 英 外国語科目 F127 必修 1単位 前期	環境論 I 1015111 環境工学共通 総合科目 (社会・環境) 大講義室 必修 2単位 前期	
2時限	物理学 I 1011311 上谷 保裕 基礎科目 F221 必修 2単位 前期	ドイツ語 I 1012312 岸本 明子 外国語科目 L203 選択 1単位 前期	数学 I 1013311 土井 一幸 基礎科目 F221 必修 2単位 前期	線形代数 1014311 石森 典次 専門科目 F321 選択 2単位 前期	化学 I 1015311 川崎 正志 基礎科目 F221 選択 2単位 前期	
3時限		数学物理学演習 I 1012511 上谷 保裕 基礎科目 F101 必修 1単位 前期	機械製作実習 1013511 宮本 孝行 専門科目 バステル工房 必修 2単位 前期	教養ゼミ I 1014513 平野 高孝 総合科目 (人間) F128 必修 1単位 前期	工業力学 1015511 木下 食博 専門科目 F221 選択 2単位 前期	

履修申請確認 (時間割)

6時限

集中講義

講義コード	講義名称	講義副題	関連学位科目	講義開講時期	校地	講義区分	代表教員	科目分類	教室名	必修別	単位数
1019112	キャリア形成論		キャリア形成論	通年			キャリア形成科目共通	キャリア形成科目 キャリア形成科目1	その他	必修	1

- ◇ 「履修申請確認」画面に履修申請した科目すべてが表示されます。
- ※集中講義は下部に表示されますので必ず確認してください。
- ◇ 入力内容を確認し、変更がなければ『登録』ボタンをクリックしてください。『登録』ボタンは確認画面左上と左下に表示されます。
- ◇ 確認のダイアログが表示されます。登録を確定してよければ『OK』ボタンをクリックしてください。
- ◇ 登録漏れなど、変更を行う場合は画面右下の『戻る』ボタンをクリックし、「3-2 履修登録処理 (通常講義)」からの操作を再度行ってください。

4-1 履修申請チェック

◇ 履修申請チェックが終われば「履修申請チェック登録完了」画面が表示されます。

◇ 履修申請チェックにエラーがない場合は、下図の完了メッセージが表示されます。

○ 履修申請チェック（時間割）登録完了



履修申請登録が完了しました。
履修チェック結果(時間割)から申請状況を確認してください。

履修チェック結果を確認する

◇ エラーがある場合、下図のメッセージが表示されます。

○ 履修申請チェック（時間割）登録完了



履修申請で登録エラーがあります。
履修チェック結果(時間割)からエラー内容を確認して
再度履修申請を行ってください。

履修チェック結果を確認する

◇ 『履修チェック結果を確認する』ボタンをクリックすると、履修チェック結果（時間割）画面に移動します。

◇ エラーがあった場合、履修修正等の作業が必要になる可能性があるので必ず確認をしてください。

4 履修申請チェック（結果）

- ◇ システムでチェックを行った結果、問題なく履修できると判断された講義情報が表示されます。内容に間違いがないか確認してください。

- ◇ 画面右上の『PDF』ボタンをクリックすると、履修情報をPDF出力することができます。

- ◇ エラーがある場合、エラーとなった講義の情報が表示されます。エラー内容のうち、修正が必要な場合は、「Web履修申請」画面から『履修申請（時間割）』を選択し、修正登録を行ってください。この場合も必ず「3-4 履修登録処理（登録確認）」からの操作を行い、『登録』ボタンをクリックして登録を確定させてください。

（エラー表示例）

10126010 日本語表現法 必修科目未登録チェックエラー
10138030 健康科学演習 必修科目未登録チェックエラー
10207010 物理実験 必修科目未登録チェックエラー
18111010 キャリア形成論 必修科目未登録チェックエラー

- ◇ 当該学期には修正登録のできない科目もエラー表示されることがあります（例：開講学期が異なる科目や指定科目等の未登録チェックエラー）。エラー内容について分からない点があれば事務局（教務課）までお問い合わせください。

◇ システムによるエラーチェック以外に履修登録内容にエラーがあった場合、履修登録期間の締め切り後、エラー状況を学生掲示板に掲示しますので、履修修正期間内に登録内容の修正を行ってください。

※ 履修登録を行った科目については、講義支援システム（エスプリ）への講義登録も行ってください。登録方法は、「講義支援システム（エスプリ）マニュアル」のP.89を参照してください。

※ 履修修正期間の締め切り後、履修申告確認表を交付します。履修申告確認表の内容を確認し、登録内容に訂正・変更等が必要な場合は、事務局（教務課）へ履修登録の変更申請を行ってください。（履修申告確認表の交付後は、履修登録システムでの修正はできません。）

X 講義支援システム(エスプリ)マニュアル

X 講義支援システム（エスプリ）マニュアル

1. 講義支援システム（エスプリ）について

講義支援システム（エスプリ）は、授業を受ける際に、インターネットを通じて学生と教員間の双方向コミュニケーションを図るためのものです。授業の予習・復習を支援し、学生のみなさんの学力向上と授業の円滑な進行を促します。担当教員からの連絡事項が随時掲載されますので、毎日確認してください。

アクセス先：<https://esprit2.pu-toyama.ac.jp> ※学外からもアクセスできます。

主な機能（教員によって、利用の仕方が異なる場合があります。具体的な利用方法は担当教員の指示に従ってください。）

① 授業科目の説明（シラバス）の閲覧 …… P.90参照

シラバスには、授業科目の履修にあたっての大切な情報が掲載されています。履修登録前に必ず確認してください。「シラバス発行システム」（P.92参照）を使用することで、より見やすい様式での印刷も可能です。

② 休講補講等情報の閲覧

トップページの「学校からのお知らせ」に休講補講、教室変更、時間割変更の情報を掲載します。毎日確認してください。

③ 「配付資料」のダウンロード

授業の配付資料がダウンロードできます。授業の予習復習に役立ててください。

④ 「テスト」の閲覧

課題が指示されます。授業の前後に必ず確認してください。

⑤ 「掲示板」の閲覧・投稿

講義に関する質問等を投稿し、その回答を閲覧することができます。

⑥ 「Webリンク・参考書籍」の閲覧

講義の参考となるWebリンクや参考書籍を紹介しています。授業の予習復習に役立ててください。

⑦ 「アンケート」への回答

担当教員等からのアンケートが掲載されますので、回答してください。

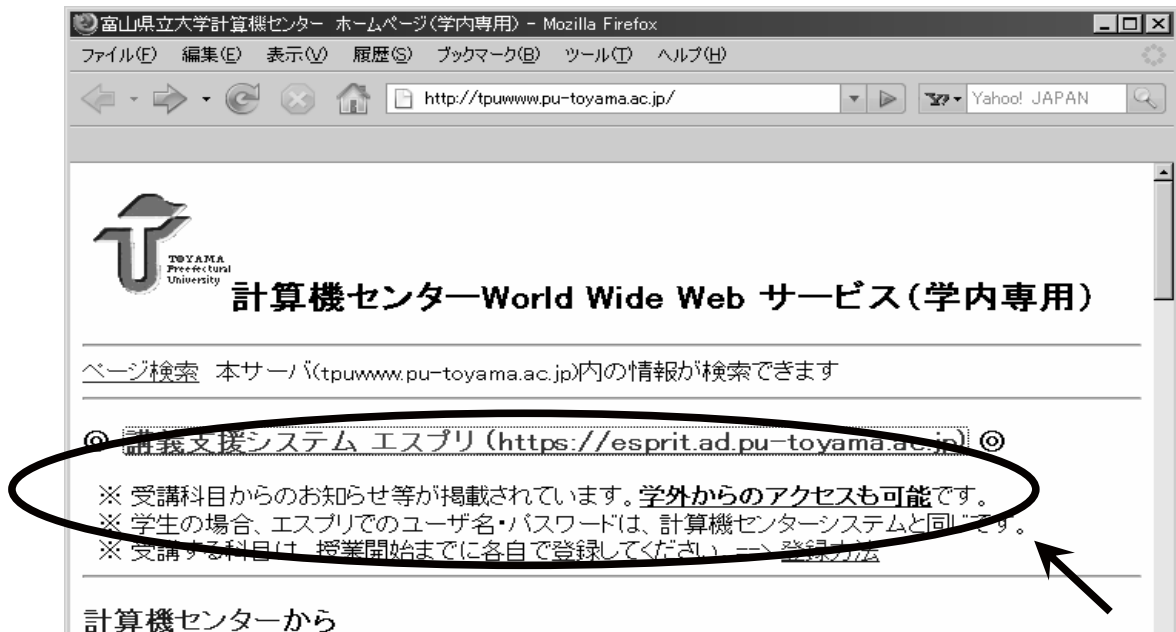
⑧ 「講義のお知らせ」の閲覧

担当教員から講義に関しての様々な情報が掲載されます。毎日確認してください。

※③～⑧を利用するには、エスプリへ講義の登録を行う必要があります。履修登録システムで履修申請を行った科目については、P.89のとおりエスプリにも登録を行ってください。

2. 講義支援システム（エスプリ）のアクセス方法

(1) 富山県立大学学内ホームページ



◇ 『講義支援システム（エスプリ）』を選択してください。

(2) 講義支援システム（エスプリ）トップページ



◇ ログインしてください。

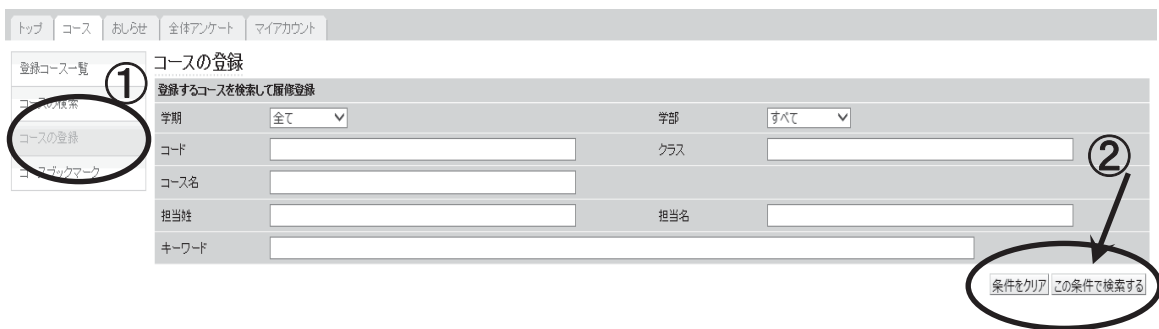
(学生の場合、ユーザ名・パスワードは計算機センターシステムと同じです。)

3. 講義支援システム「エスプリ」への講義の登録方法（学生用）

(1) エスプリにログイン後、「講義」をクリックします。（既に履修している講義が一覧で表示されます。） ※下図では「コース」と表示されていますが、実際は「講義」となっています。



(2) 「講義の登録」をクリックし、条件を入力後、『この条件で検索する』ボタンをクリックします。



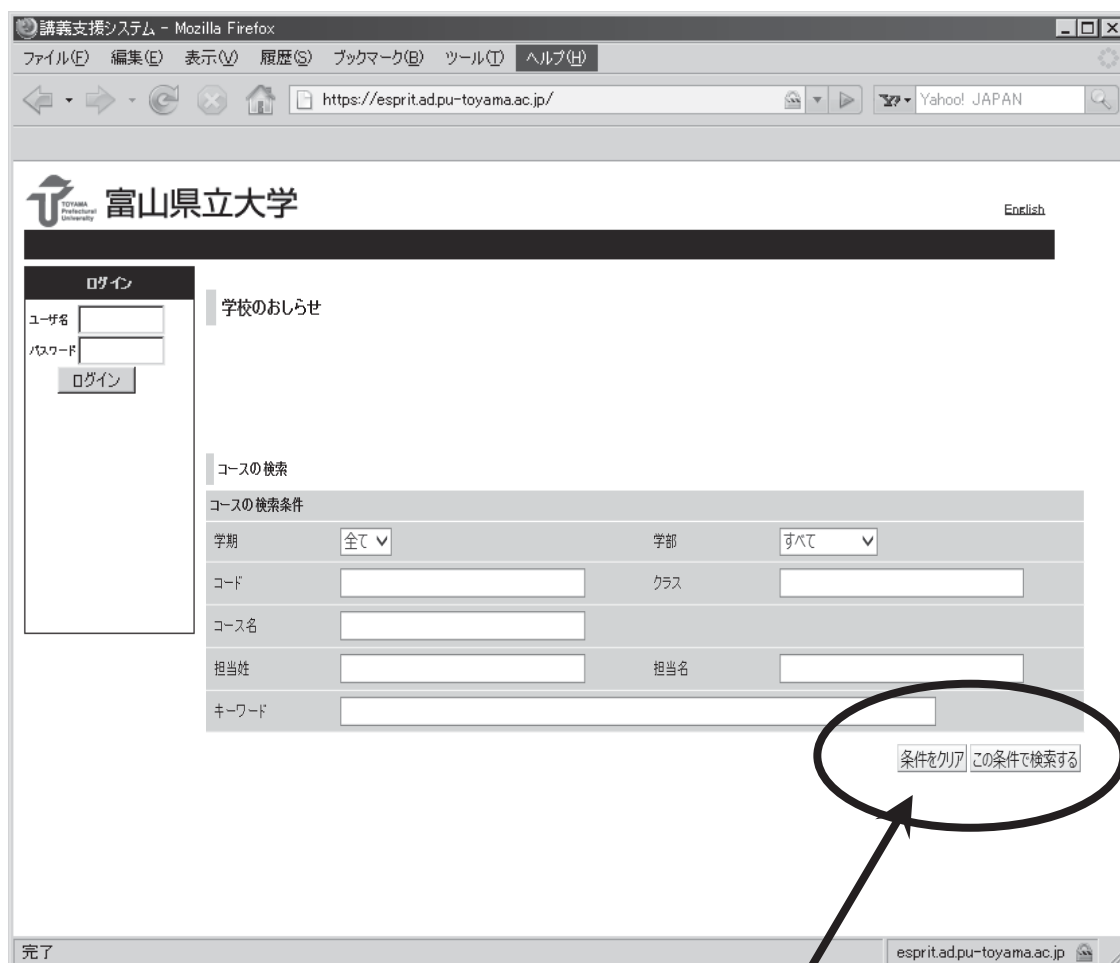
(3) 検索された講義の中から、目的の講義のチェックボックスにチェックを入れ、「実行」をクリックします。（他の講義も登録する場合、(2)に戻ります。）



※修正する場合は、(1)の「登録講義一覧」から、右端にある「登録取消」ボタンをクリックして講義を取消してください。

4. シラバスの検索方法 — エスプリの画面表示による場合 —

(1) 講義支援システム（エスプリ）トップページ



◇ 講義検索

条件を入力後、『この条件で検索する』ボタンを選択してください。

ページ下部に、開講される講義一覧が表示されますので、内容を見たい講義の講義名を選択します。

(2) 講義内容の閲覧

コースのプレビューを表示しています。プレビューが許可されているコンテンツのみ参照できます。⇒検索にもどる ⇒ログインする

教養ゼミ I

コーストップ
写真を隠す #おしらせ #スケジュール #概要

担当教員

	教養教育教員1 最終アクセス日時: 2015/01/06 17:31
---	--

アシスタント

	教養教育教員2 最終アクセス日時: 2014/08/20 13:01
---	--

おしらせ

コースのおしらせは登録されていません。

スケジュール

タイプ	期間	時間割	時間	場所	備考
通常	2014/4/1 - 2015/3/31	木(4)	14:40 - 16:10		

概要



◇ 講義の内容が表示されますので確認してください。

－ シラバス発行システムの場合 －

本システムでは、シラバスの検索及び発行ができます。

(1) シラバスの検索

- ・ 講義コード、講義名、教員名により検索が可能。
(それぞれの一部入力による検索も可能。)

(2) シラバスの発行

- ・ EXCELファイル保存 (任意の場所に保存可能。)
- ・ EXCELファイル保存+表示 (プレビュー)
- ・ EXCELファイル保存+印刷実行
- ・ 印刷
- ・ 表示

注意事項

本システム的前提となるOFFICE (EXCEL) のバージョンは、EXCEL 2000、2003、2007、2010です。
(EXCEL 97では、正常に動作しない場合がありますので、ご了承ください。)

利用手順

- ① エスプリを開いてください。(アドレスは下記のとおり)

<https://esprit2.pu-toyama.ac.jp/>

- ② トップ画面にある「シラバス帳票発行システムについて」をクリックすると、ダウンロード先URLが表示されます。URLをクリックし、ダウンロードしてください。

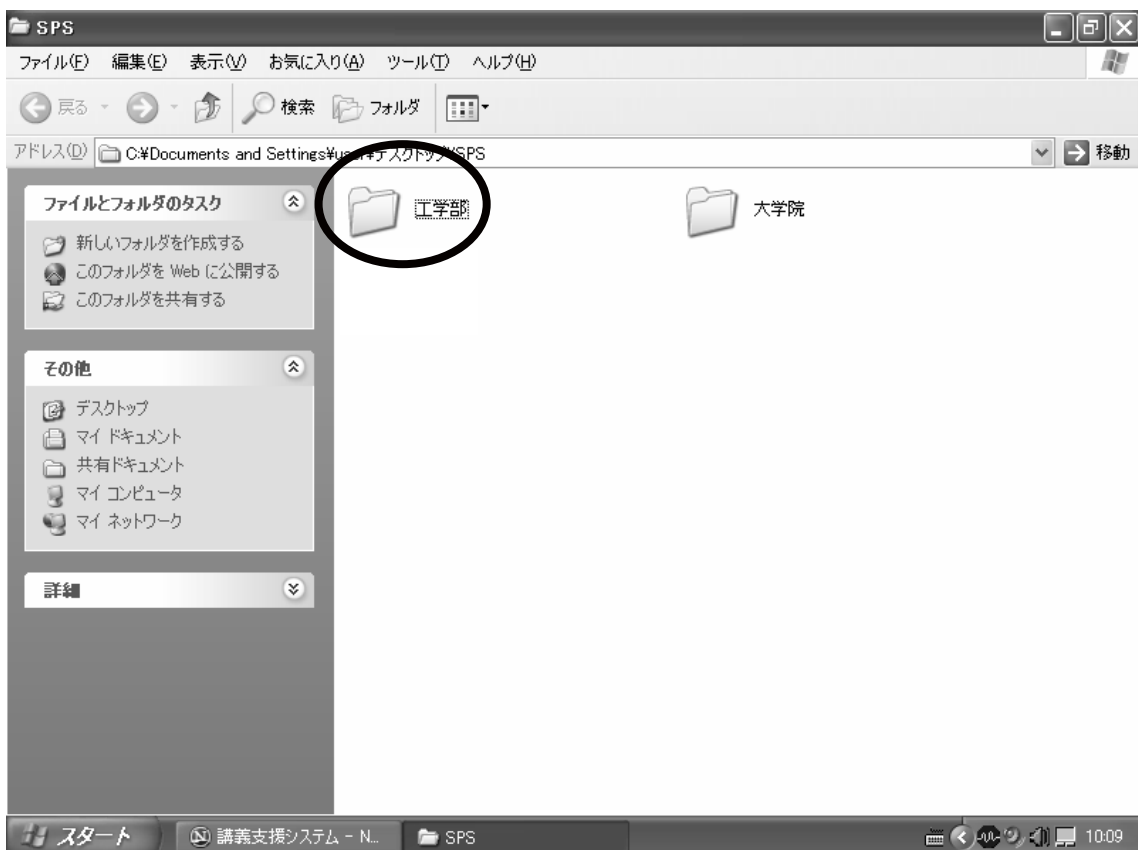


③デスクトップ等にフォルダ（“SPS”）を保存してください。

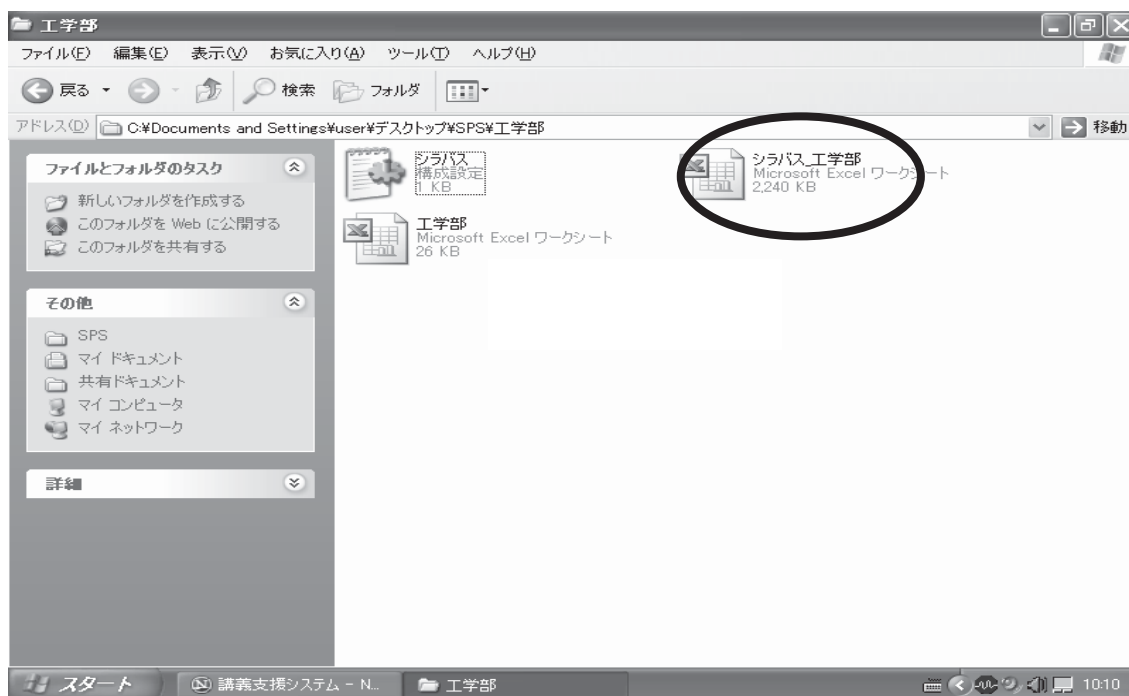


※一度デスクトップに保存すれば、2回目以降は、手順④から利用できます。（改めて、エスプリの画面上からダウンロードする必要はありません。）

④発行したい所属（工学部、大学院）のフォルダを開いてください。（例、工学部）

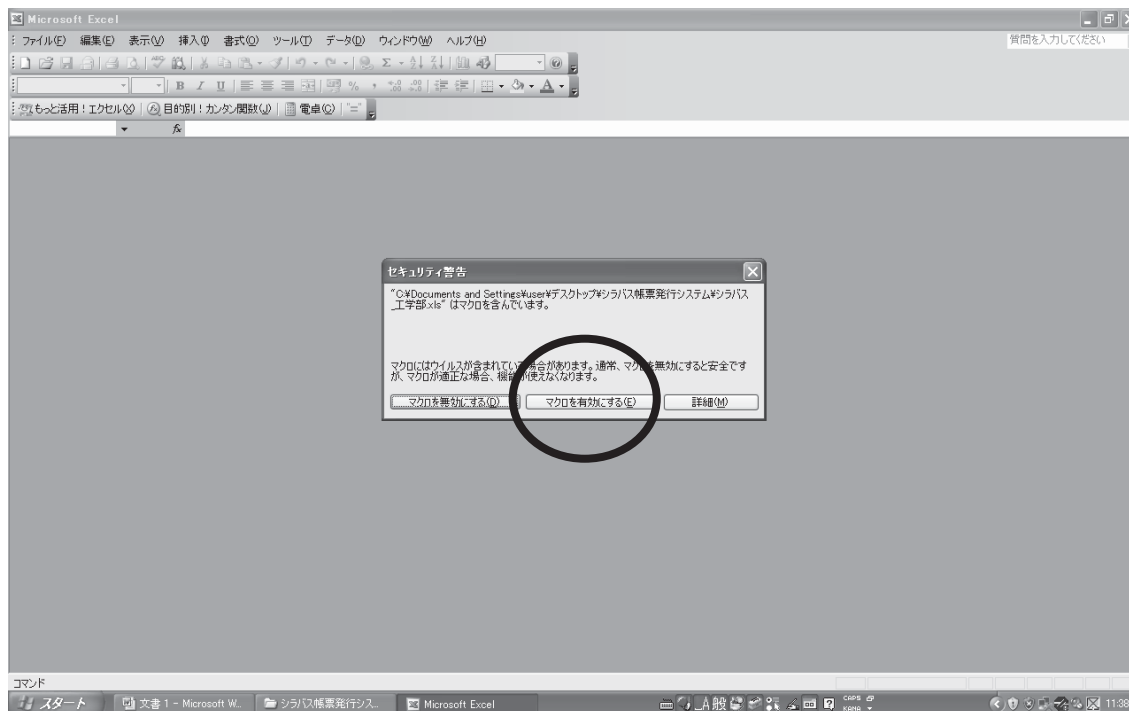


⑤選択したフォルダ内の“シラバス_所属”（例、シラバス_工学部）を開いてください。



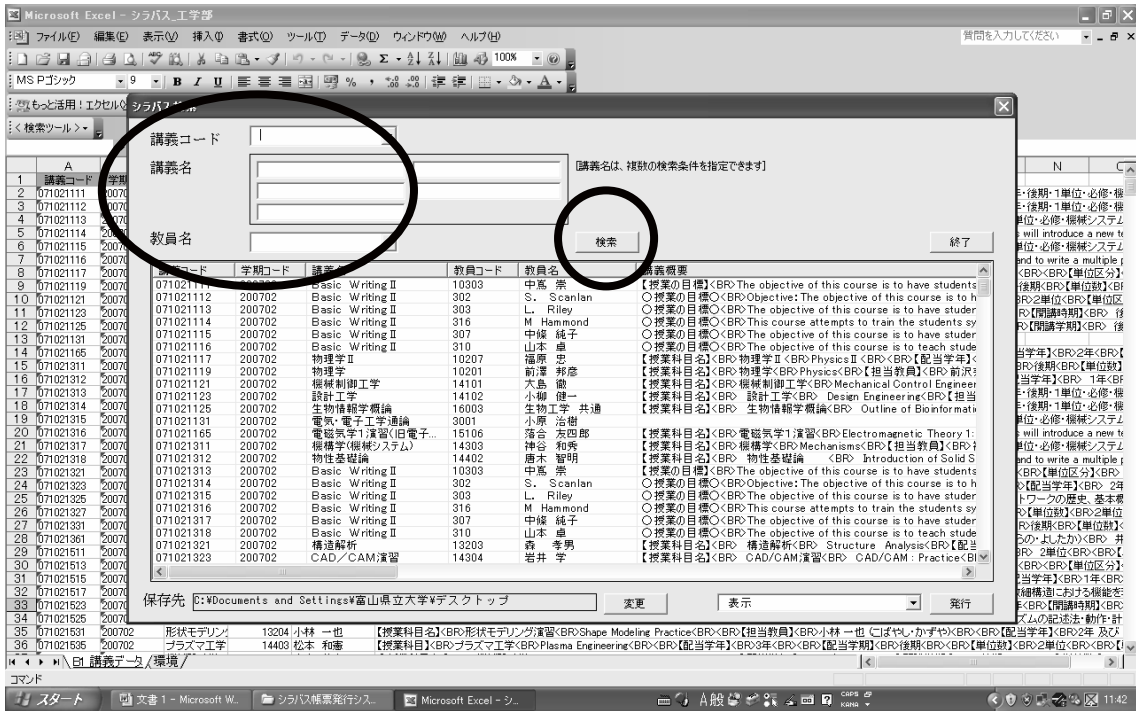
※ フォルダ内にあるファイルを削除したり、他の場所へ移動したりしないでください。
（帳票発行ができなくなります。）

⑥マクロを有効にしてください。



※この時点で、「マクロが使用できません」等のセキュリティ警告が表示される場合は、[ツール]-[マクロ]-[セキュリティ]でセキュリティレベルを『中』にし、ファイルを再起動してください。（EXCELのセキュリティ警告への対応は、P.98をご覧ください。）

⑨ “講義名”等を入力し“検索”をクリックしてください。

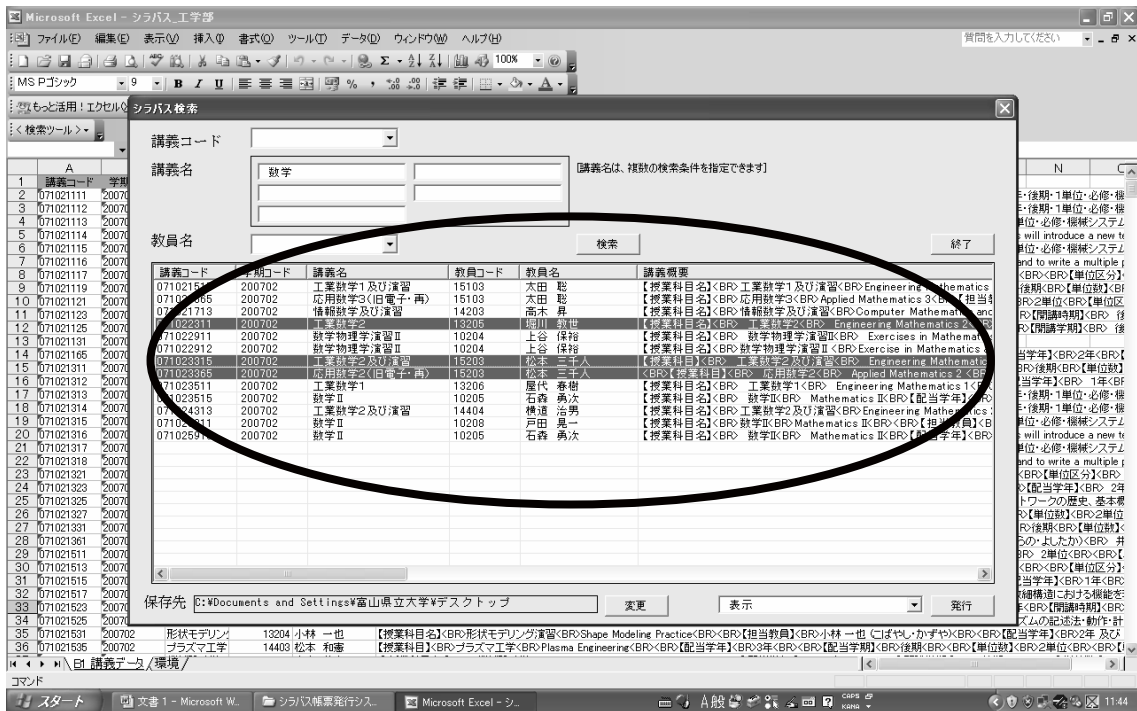


⑩ 検索結果が表示されます。



⑪発行したい講義を選択します。

複数の講義を選択することも可能です。(その場合は、「Ctrl」キーを押しながら発行したい科目をクリックしてください。)



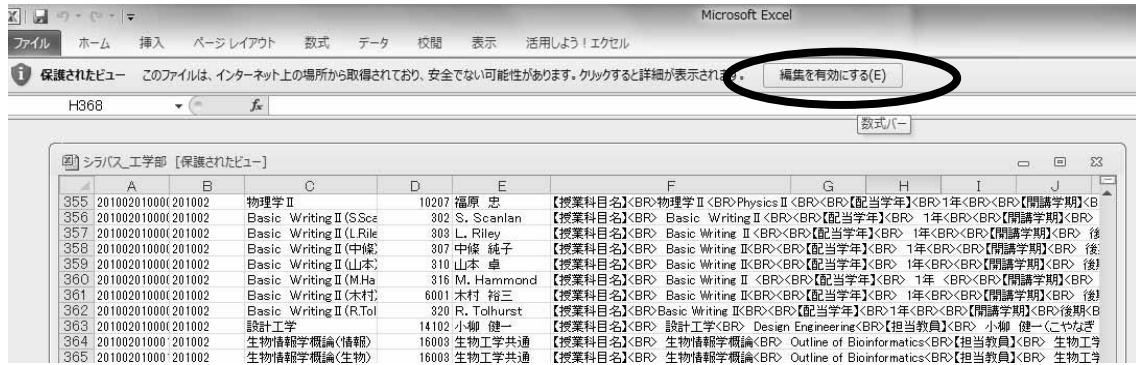
⑫発行する方法を選択し、「発行」をクリックすると発行されます。



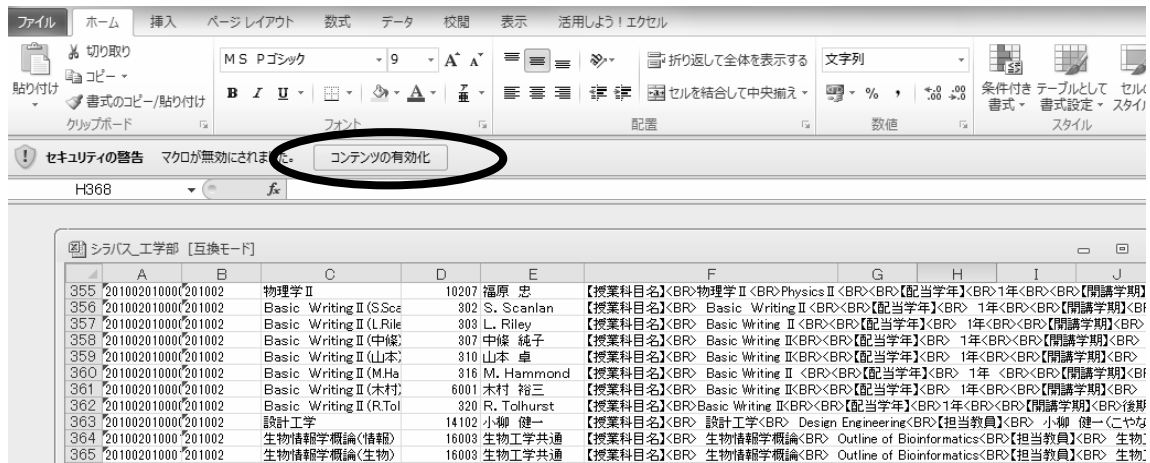
※ファイルの保存先は、「変更」をクリックすれば任意の場所に変更できます。

EXCEL 2010 での操作について

1 EXCEL2010起動時下記の画面が表示された場合、「編集を有効にする」をクリックして下さい。



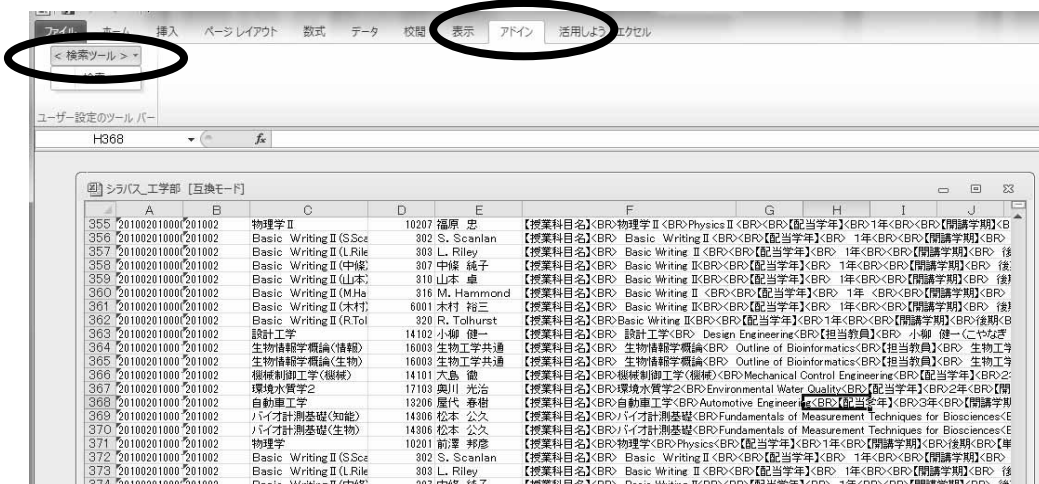
「セキュリティの警告」が表示されますので、「コンテンツの有効化」をクリックして下さい。



2 起動方法

EXCELのメニューで「アドイン」をクリックして下さい。

下図のように「検索ツール」が表示されますのでクリックして下さい。



これ以降は⑦～⑫と同様です。

平成29年度 工学研究科授業日程

前 期	後 期
<p>平成29年</p> <p>4月5日(水) } オリエンテーション 4月6日(木) } 入学式 4月7日(金) }</p> <p>4月10日(月) 前期授業開始</p> <p>5月30日(火) 振替授業 (金曜の授業)</p> <p>6月19日(月) } 特別授業 (補講) 6月20日(火) }</p> <p>6月26日(月) } 補講週間 6月30日(金) }</p> <p>7月3日(月) } 特別授業 (補講) 7月7日(金) } 7月8日(土) }</p> <p>7月10日(月) } 補講週間 7月14日(金) }</p> <p>7月18日(火) } 特別授業 (補講) 7月19日(水) }</p> <p>8月10日(金) 前期授業日程終了</p>	<p>10月2日(月) 後期授業開始</p> <p>10月31日(火) 振替授業 (月曜の授業)</p> <p>11月2日(木) 振替授業 (金曜の授業)</p> <p>12月4日(月) } 補講週間 12月8日(金) }</p> <p>12月12日(火) } 12月13日(水) } 特別授業 (補講) 12月15日(金) 午前 } 12月18日(月) }</p> <p>平成30年</p> <p>1月4日(木) 授業再開</p> <p>1月12日(金) 午前 特別授業 (補講)</p> <p>1月13日(土) } 大学入試センター試験 1月14日(日) }</p> <p>1月22日(月) } 補講週間 1月26日(金) }</p> <p>1月27日(土) 特別授業 (補講)</p> <p>2月14日(水) 後期授業日程終了</p> <p>3月下旬 学位記授与式 (予定)</p>

休講となる日

(平成29年)	5月26日(金)	学生球技大会	全日休講
	6月1日(木)	開学記念日	全日休講
	10月27日(金)	大学祭準備	午後休講
	10月30日(月)	大学祭後片付け	全日休講
	11月24日(金)	工学部推薦入試	全日休講
(平成30年)	1月12日(金)	大学入試センター試験準備	午後休講